



GRESS

株式会社 グレ ス

User's Manual
取扱説明書

GRESS ウッドチップパー (GRSWDC-125)

作業を行う際は必ずスロットルレバーを高回転にして
ご使用ください。

不完全燃焼で燃料がマフラーへ入り、**発火**する恐れがございます。



パッケージと型式名は
製造ロットにより
変わっている可能性があります。
中身は注文された製品です

ご使用前に必ずお読みください。

- ・輸送の都合上、排出口を外した状態で発送しています。
到着後組み立てが必要になります。
- ・輸送(運搬時)にボルト類がゆるみますので必ず増し締めしてください。
- ・弊社にて試運転しており、エンジンオイルは
規定量入っておりますが、
輸送の都合上ガソリンは抜いた状態で出荷しています。
ご使用前にガソリンを規定量入れて各部グリスアップを行い
試運転で状態確認後からご使用ください。

最終ページに問い合わせ先などの
情報を記載しています。
無くさないよう大切に保管してください。

はじめに

この度はグレスウッドチップパー(GRSWDC-125)をご購入いただき、誠にありがとうございます。

注意事項

- ・本説明書には使用前の注意事項、部品図、メンテナンスについて重要な説明を記載しています、ご使用前に必ずお読みいただきますようお願いいたします。

保証内容

- ・本機具の保証期間は商品到着日より1ヶ月になります。
 - ・以下に該当する場合は保証対象外になりますのでご注意ください。
弊社では一切の責任（および費用）を負いかねますのでご注意ください。
- 1:本説明書をお読みにならず使用された場合やメンテナンス不備
本来の用途とは異なる目的で使用した場合
 - 2:刃など消耗部品の劣化
 - 3:お客様の整備による不備、過失、分解および改造による不具合
およびそれに起因するけが、事故、損失
 - 4:本説明書に記載のない方法で使用したことによる不具合
 - 5:使用に支障のない塗装ムラ、気泡、キズ、へこみなど
 - 6:故障後、弊社の同意なく修理をおこなった場合
 - 7:故障に伴う経済的損失
 - 8:作業中に本機具が異物（大きな石や岩など）に当たった衝撃で故障した場合

※上記に該当しない不具合につきましては部品交換にて対応いたします。

初期不良 ※ヤフオク落札は対象外となります。

- ・初期不良は商品到着後7日以内に弊社に連絡いただいた場合が対象になります。
- ・初期不良が認められた場合は無償で同品（新品）と交換いたします。
購入品のため、お届けまで数か月かかる場合がございます。

以下に該当する場合に初期不良と認定致します。

- ・開封時に確認できる製造、配送に起因するあきらかな異常
- ・試運転（到着後7日以内）にて見受けられる異常や故障

安全運転のために

- ・事故を未然に防ぎ安全に作業するためにも本説明書の記載事項を必ず守ってください。
守らないと死亡、傷害事故や本機具の故障につながる恐れがあります。

※本機具の連続使用は、機械の故障を防ぐため、最大20分までとしてください。

20分使用した場合は必ず10～15分、本機具を休ませてください。

作業者について

- ・作業時は作業用手袋、安全靴、保護眼鏡などの安全防具を着用してください。
- ・可動部に挟まれると危険ですので、服装はだぶつきのない物を着用してください。

このような場合は使用しないでください

- ・過労、病気、飲酒、妊娠、薬物の影響がある場合、年少者や操作に慣れていない人

※本説明書に記載されている使用方法および注意事項、警告などを
守らなかった場合の損傷や事故、法律違反について弊社は一切の責任を負いません。

グレス ウッドチップパーについて

・古い乾燥した竹は粉碎できません。縦に割れて刃に巻きついてしまう可能性があります
気をつけてご使用ください。

- ・熱を持ちやすい部分には結束バンド等を使い接触を避けるようにケーブル等をまとめてください。
- ・作業をおこなう際、周囲の状況、環境に気をつけて作業を行ってください。
- ・本機具の上に人や動物、物などを乗せないでください。
- ・本機具の周りに人（特に子供）を近づけないでください。
- ・本機具の下に入ったり脚を入れたりしないでください。
- ・本機具の整備、燃料などの注入などはエンジンを停止してスイッチをオフにしてから安全な状態(平らな場所)で作業を行なってください。

燃料について

- ・一ヶ月以内で使い切るように調整してください。
- ・一ヶ月以上たった場合はガソリンを交換するようにしてください。
(特に屋外保管の場合、ガソリンが劣化して不純物が発生します。
不純物が燃料タンク内からキャブレター等にまわって故障、発火のおそれがありますので十分ご注意ください。)

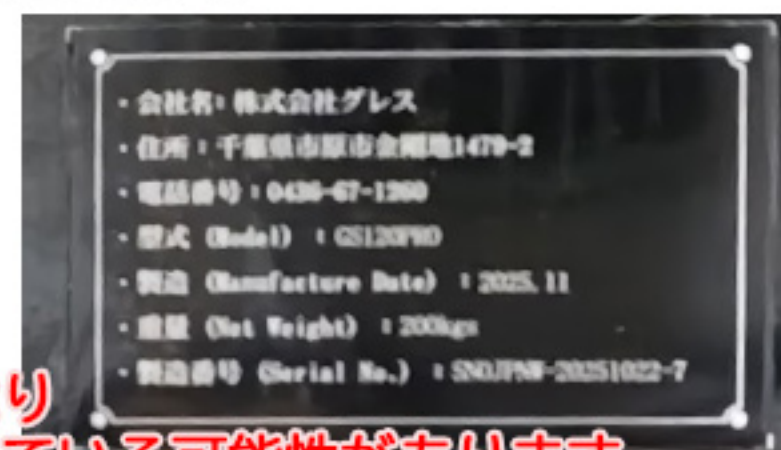
安全確認

※本説明書に記載されている使用方法および注意事項、警告などを
守らなかった場合の損傷や事故、法律違反について当方は一切の責任を負いません。

- ・安全のため、余裕を持った操作を心がけ、急発信・急停止・急旋回はしないでください。
- ・仕様変更による部品等の変更で説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・排気ガスによる一酸化炭素中毒になる恐れがあります。屋内など換気が不十分な場所では運転や作業を行わないでください。
- ・雨天時や水たまり等、本機械が大量の水を浴びるような条件での使用は避けてください。
- ・身体に静電気が帯電した状態では作業を行わないでください。気化したガソリンによる引火の可能性があります、やけど・火災につながる恐れがあります。
- ・作業前にボルトの緩み、ベルトの張りなどの点検・整備を行い異常がないことを確認後、作業を行ってください。
- ・シャフトやベルトなど回転（可動）部分で怪我をする恐れがあるので手・足・髪・服が巻き込まれないように注意してください。
- ・破損・欠落・故障している部品は、使用前に交換してください。
燃料漏れがないか確認し、常に安全に使用できる状態を保ってください。
- ・作業後、**毎回エアクリナーの清掃をおこなってください。**
清掃せず使用すると、フィルターが詰まりキャブレター・エンジンにゴミが入ることにより**バックファイヤー・アフターファイヤー**が発生し、本機が動かなくなることがあります。
- ・エンジン始動前に本体についた木のゴミや刃に付いた汚れを清掃するようにしてください。
- ・燃料タンクの補給は必ずエンジンを停止後、冷めたことを確認してから行ってください。
- ・本機を子供に使わせないでください。
- ・整備を行う場合は、エンジンおよび可動部が停止していることを確認後作業をおこなうようにしてください。
- ・作業開始前、必ず周囲の安全を確認してから始動してください。
- ・飛び石や障害物などへの衝突を防ぐため、障害物は取り除いてください。

プレート・ステッカーについて

- ・本体についているプレートには製造時期、製造番号が記載されています。
お問い合わせの際、必要になりますので画像もしくはメモをとる等控えておいてください。
- ・ステッカーには注意事項が記載されています。
使用方法を遵守してください。



製造ロットにより
型式名が変わっている可能性があります。
製造番号は変わりませんので
メモをとって控えてください

使用前の確認

・本機具使用前に以下項目を確認いただき、調整してからご使用ください。

1:各部チェック⇒ボルト類は緩みやすいため、ご使用ごとに必ず増し締めしてください。

またカバー類がはずれていないか確認してください。

2:燃料⇒出荷時はガソリンを抜いてありますので、必ず給油をしてください。

燃料タンク上部は数センチ空けてください。※（古いガソリンは使用しないでください）

3:エンジンオイル

弊社にて整備時、試運転してエンジンオイルは規定量入ってます。

【各種オイル・燃料について】に交換目安を記載してますので適宜交換を行ってください。

⇒空の状態では始動すると故障の恐れがあります。必ず規定量まで入れてください。

4:燃料、各種油漏れについて⇒燃料や各種油が漏れていないか確認してください。

5:グリスアップ⇒可動部のグリスアップおよび潤滑油を塗布してください。

6:ブレード部分⇒ゴミ等が挟まったり絡んでいないか確認してください。

刃が劣化していないか、取り付けに緩みがないか確認してください。

7:本機具の清掃⇒エンジン周り等にゴミや粉砕した粉塵が付着していないか確認してください。

保管について

日常保管

燃料コック、チョークをそれぞれ「閉」に合わせた状態で保管するようにしてください。

長期保管

エンジンオイルを交換してください。

1: 半年から一年以内まで保管の場合

ガソリンタンクの錆防止のため、ガソリンを規定量まで入れてください。

2: 1年以上保管する場合

ガソリンを抜いて、エンジンを始動し停まるまで放置し、

ガソリンを完全燃焼させます。

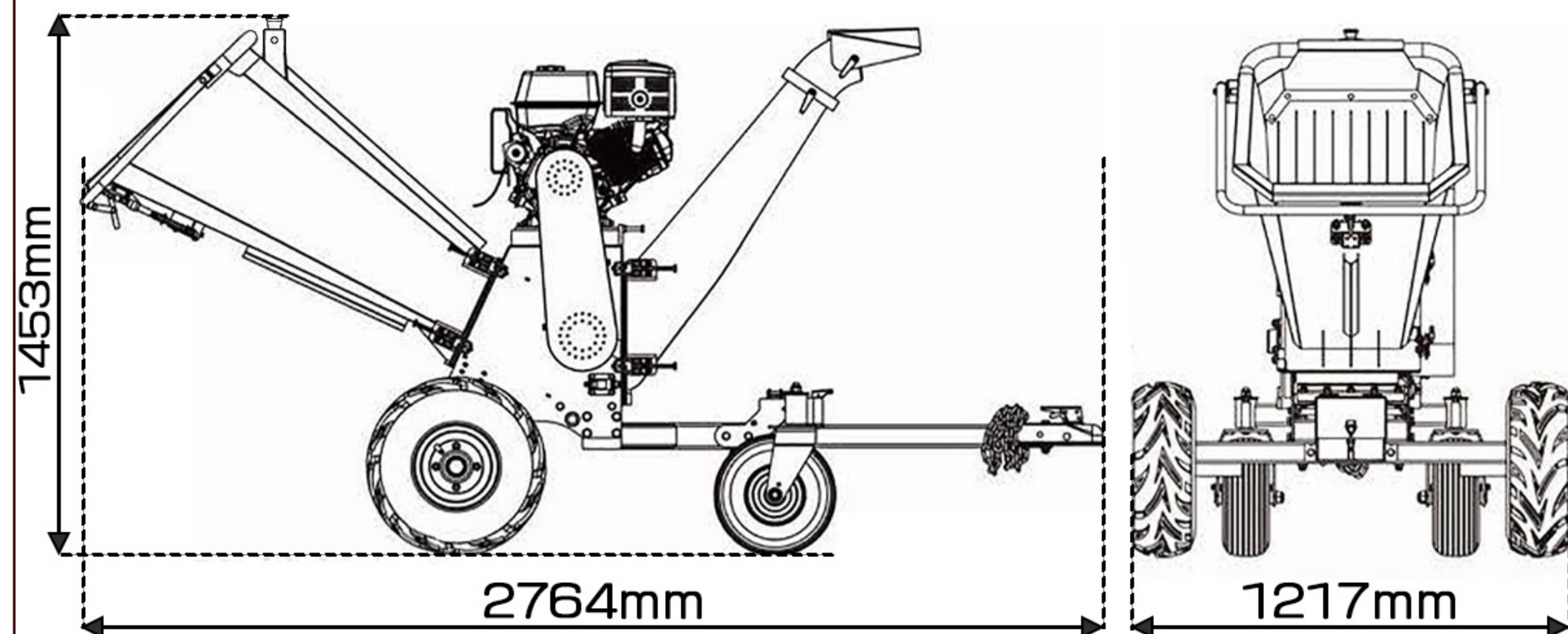
ガソリンタンクの熱が冷めたら、ガソリンタンク内に防腐剤を施して

保管するようにしてください。

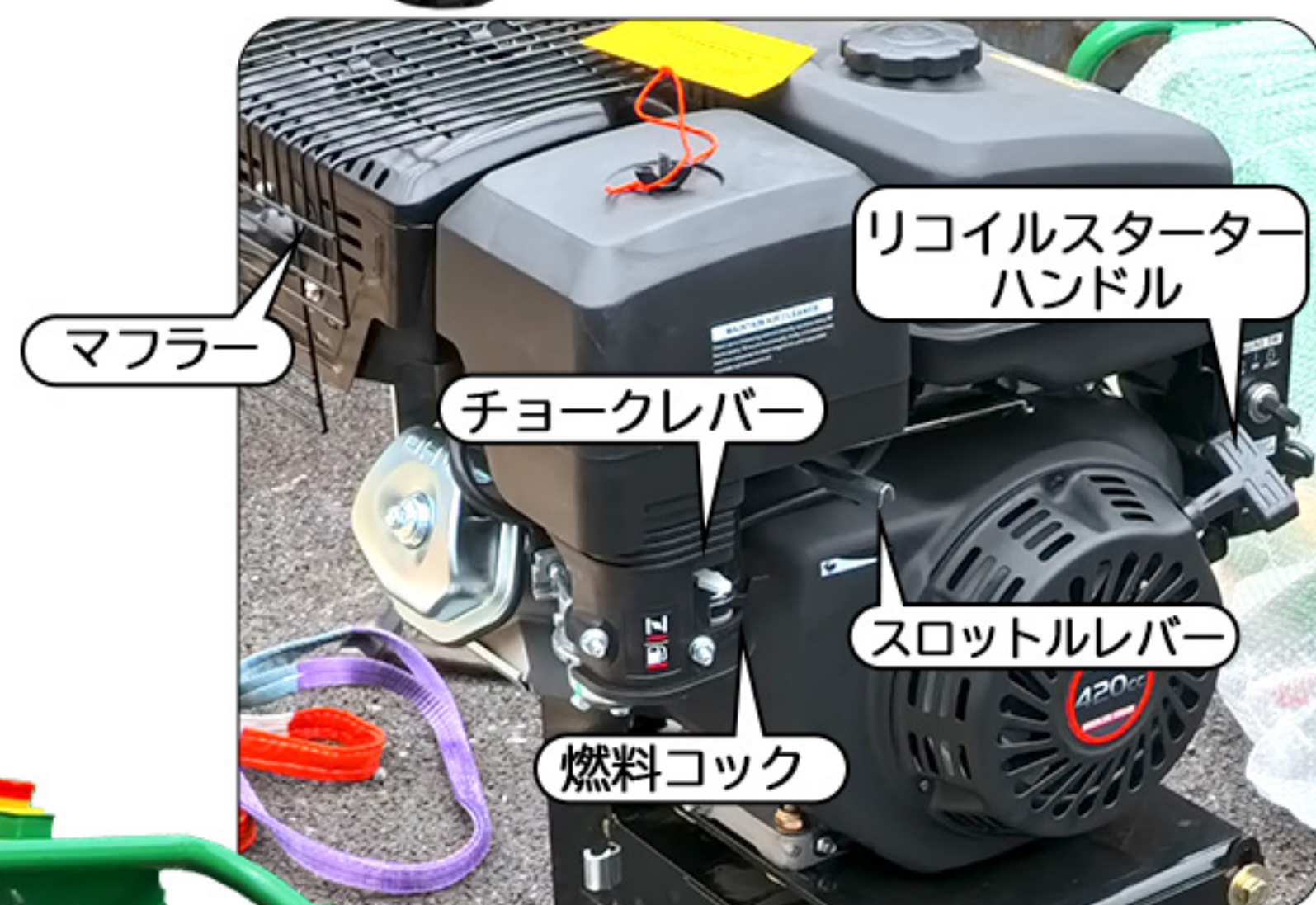


性能諸元

仕様	
エンジンブランド	420cc4サイクル単気筒空冷エンジン
走行出力・チップー用出力	15hp（馬力）ガソリンエンジン
スタート方式	リコイル/セルスターター
駆動方式	デュアルベルト駆動/遠心クラッチ
刃数	切削刃2枚/固定刃1枚
最大粉碎直径	125mm
ホイール（タイヤ）	リア 19x7.00-8、フロント 13x5.00-6インチ
緊急停止	緊急停止ボタン・レバースイッチ
正味重量/総重量	200kg/230kg
梱包サイズ	960x760x1130mm
牽引連結器	牽引バー・ヒッチカプラー



各部名称



本体・付属品

- ・ 輸送（運送）の都合で分解された状態で梱包しております。
必要な工具をご用意いただき組み立ててください。



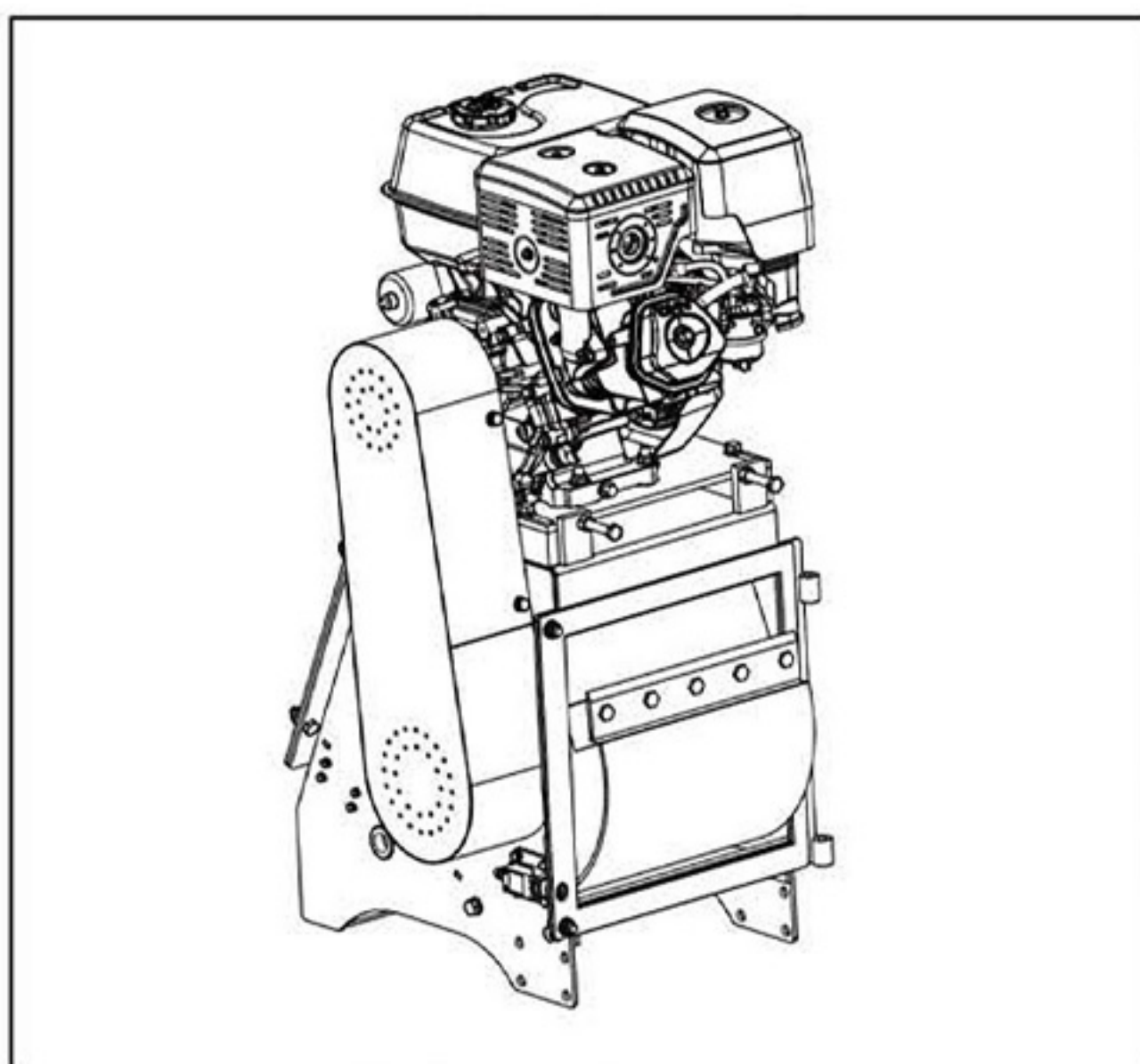
付属品:

排出口（排出シュート）
 投入口
 後輪マウント
 後輪タイヤ
 タワーバーマウント
 牽引バー・ガイドタイヤ
 ネジ・ボルト・ナットセット
 エンジンマニュアル
 ユーザーズマニュアル
 イヤーマフ（防音）
 防護グラス

工具はご用意ください。

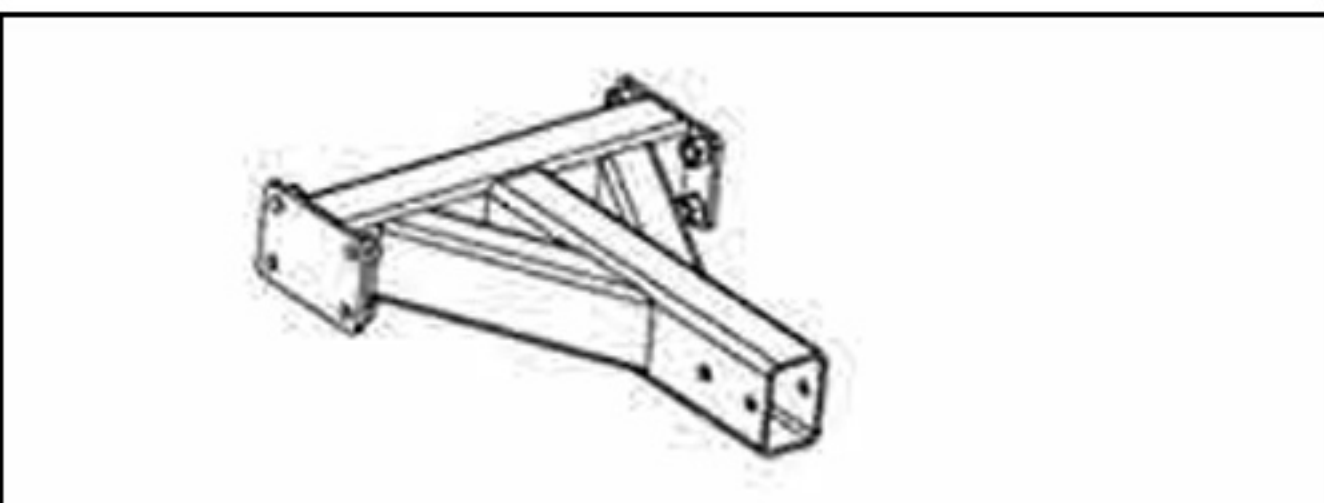
付属品一覧

本体・構成部品

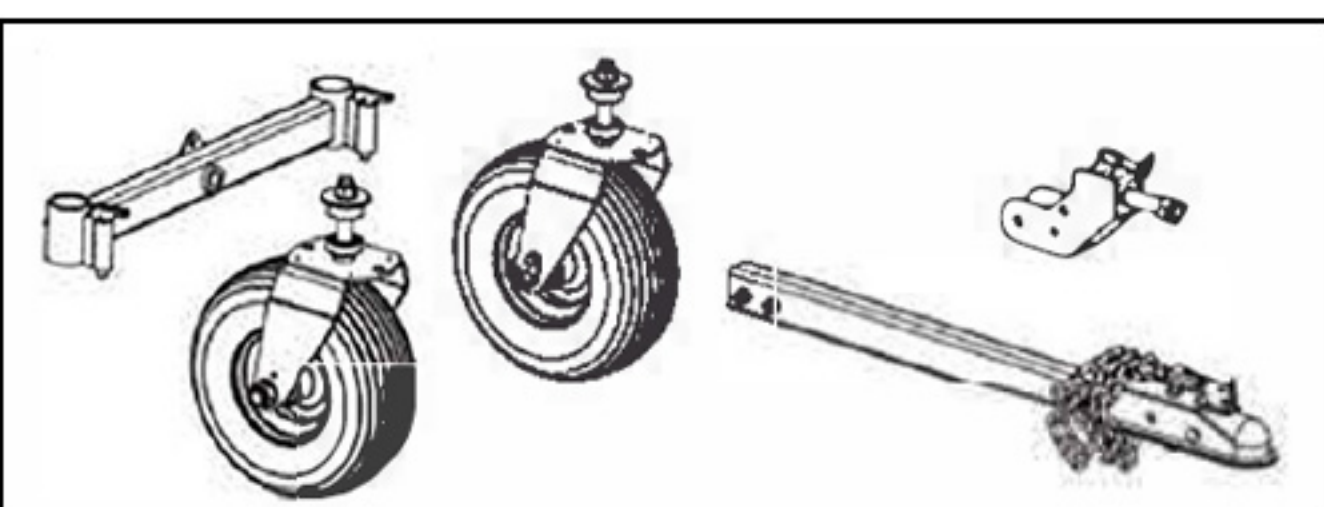


エンジン・チップー基礎フレーム

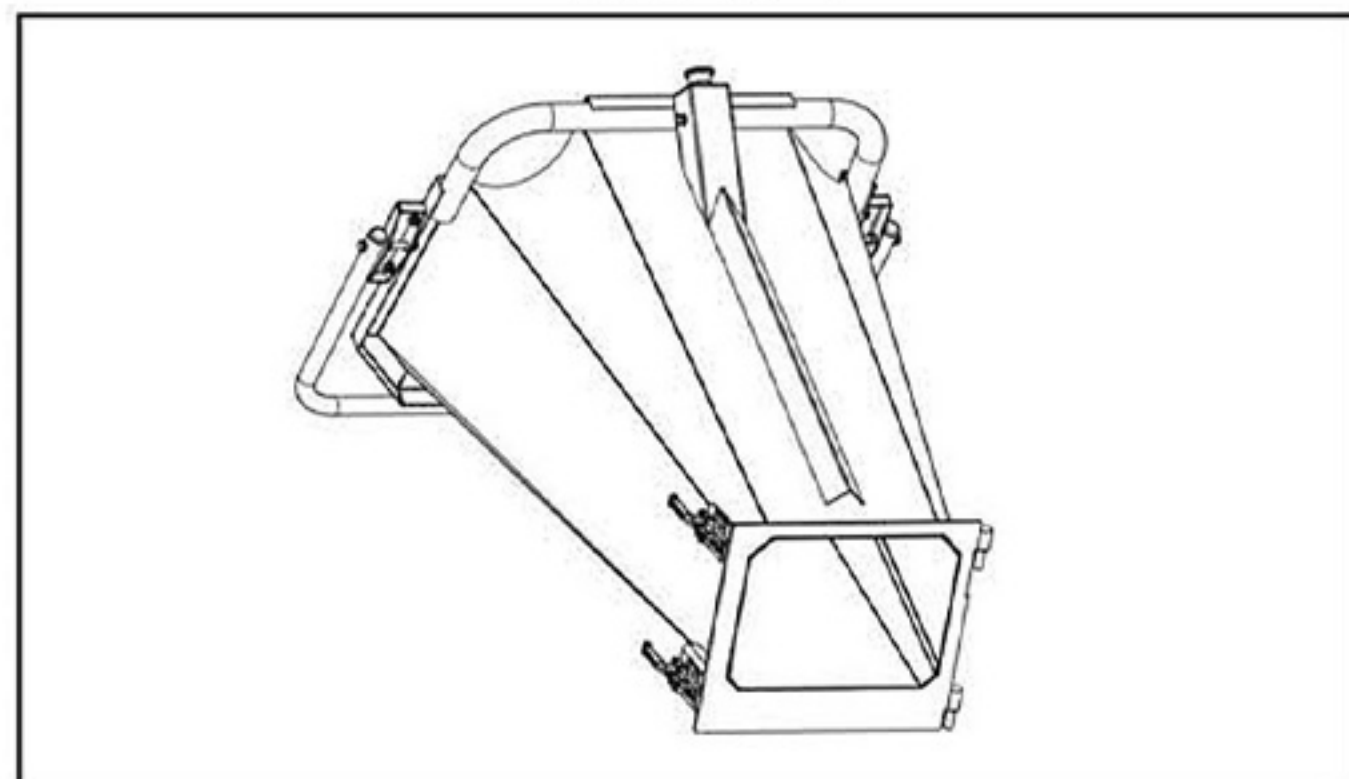
タワーバーマウント



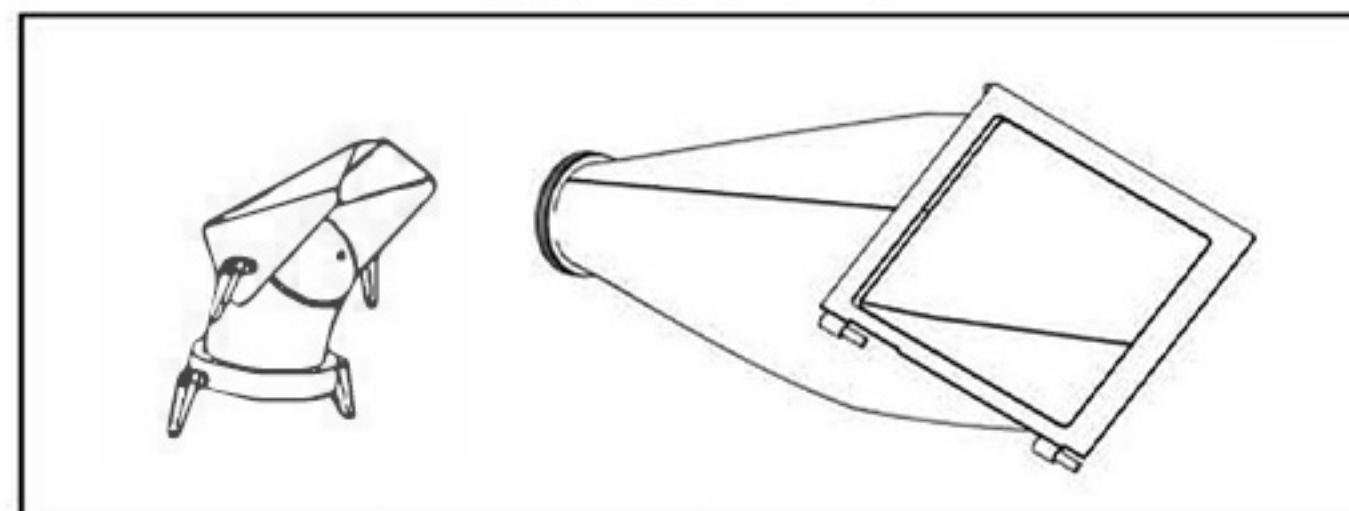
牽引バー・ガイドタイヤ（前輪）



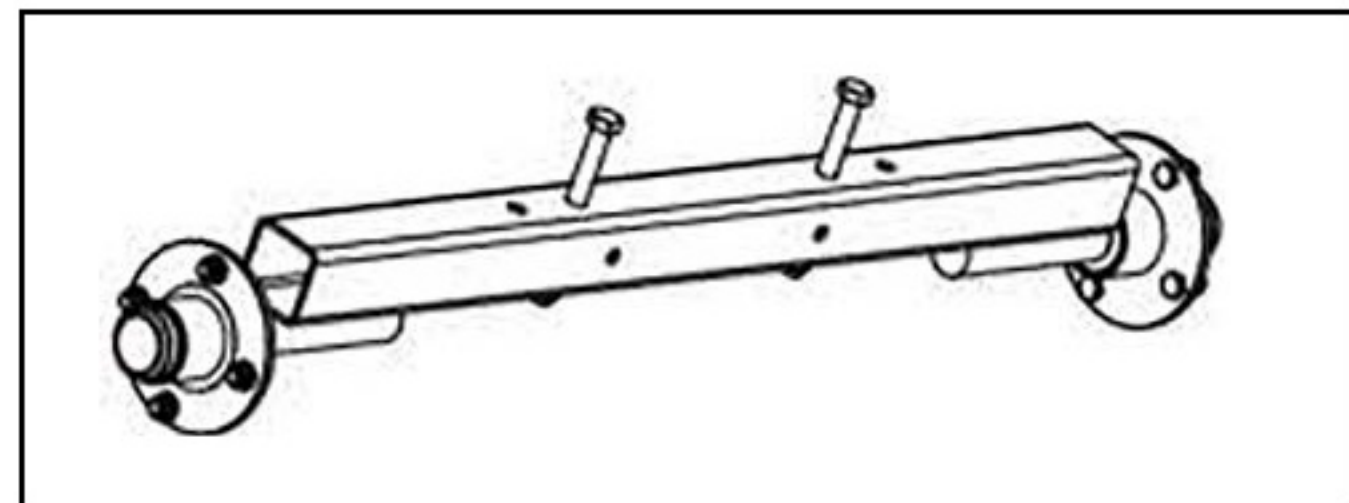
投入口



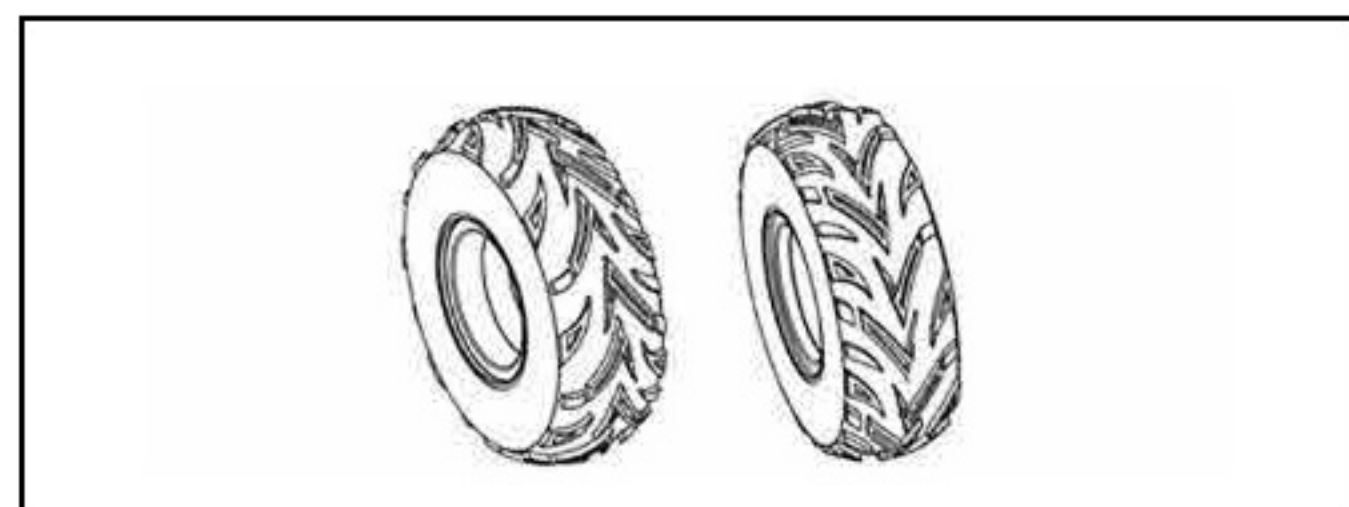
排出シュート



後輪マウント



後輪タイヤ



組み立て 1

注意・本製品は重量物です。
・組立および運搬は、必ず2～3人以上で行ってください。
ケガや腰痛の原因になります。

後輪の取り付け



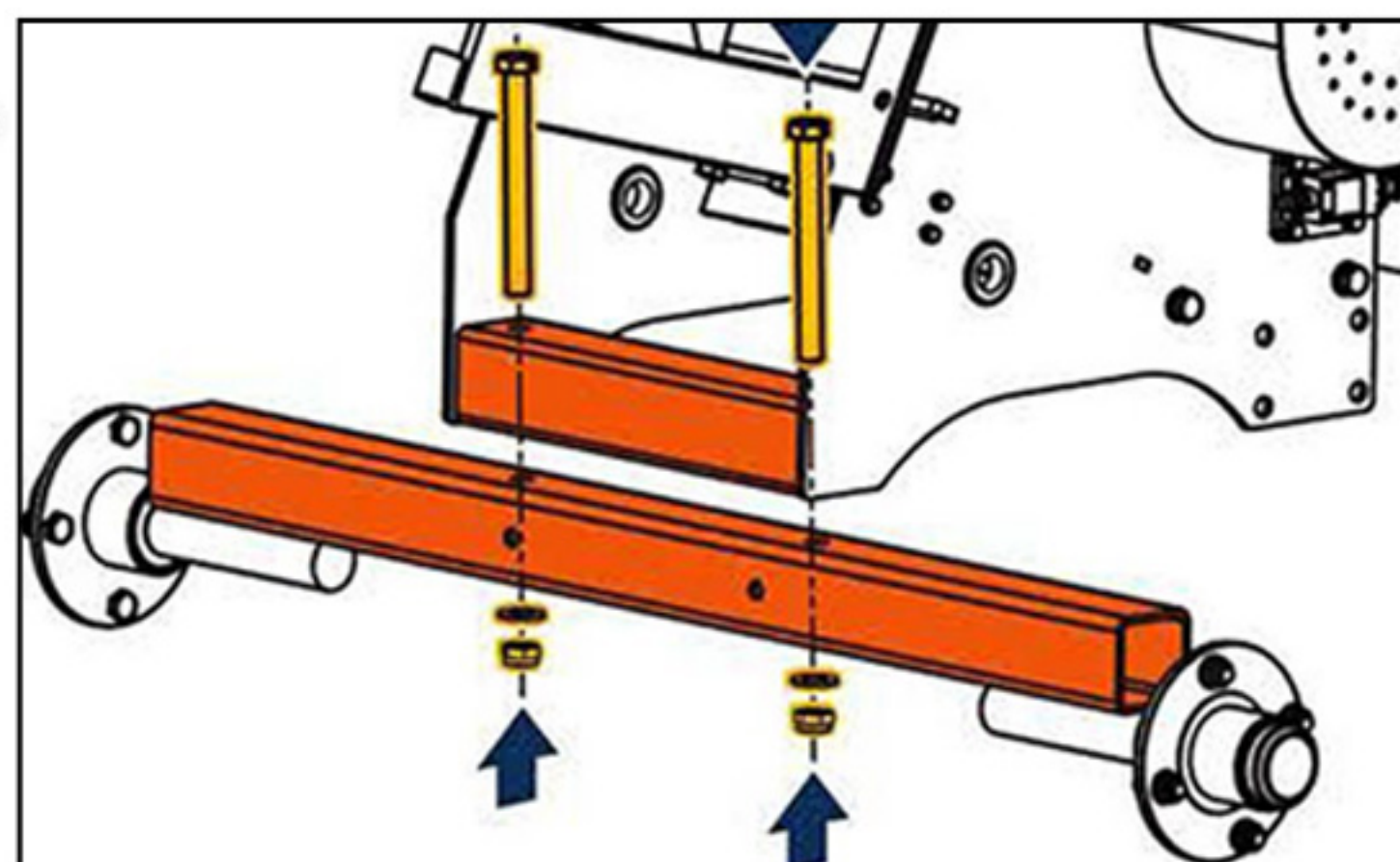
後輪マウントにタイヤ（後輪）を取り付けます。
エアバルブが外側に向くように
取り付けてください。



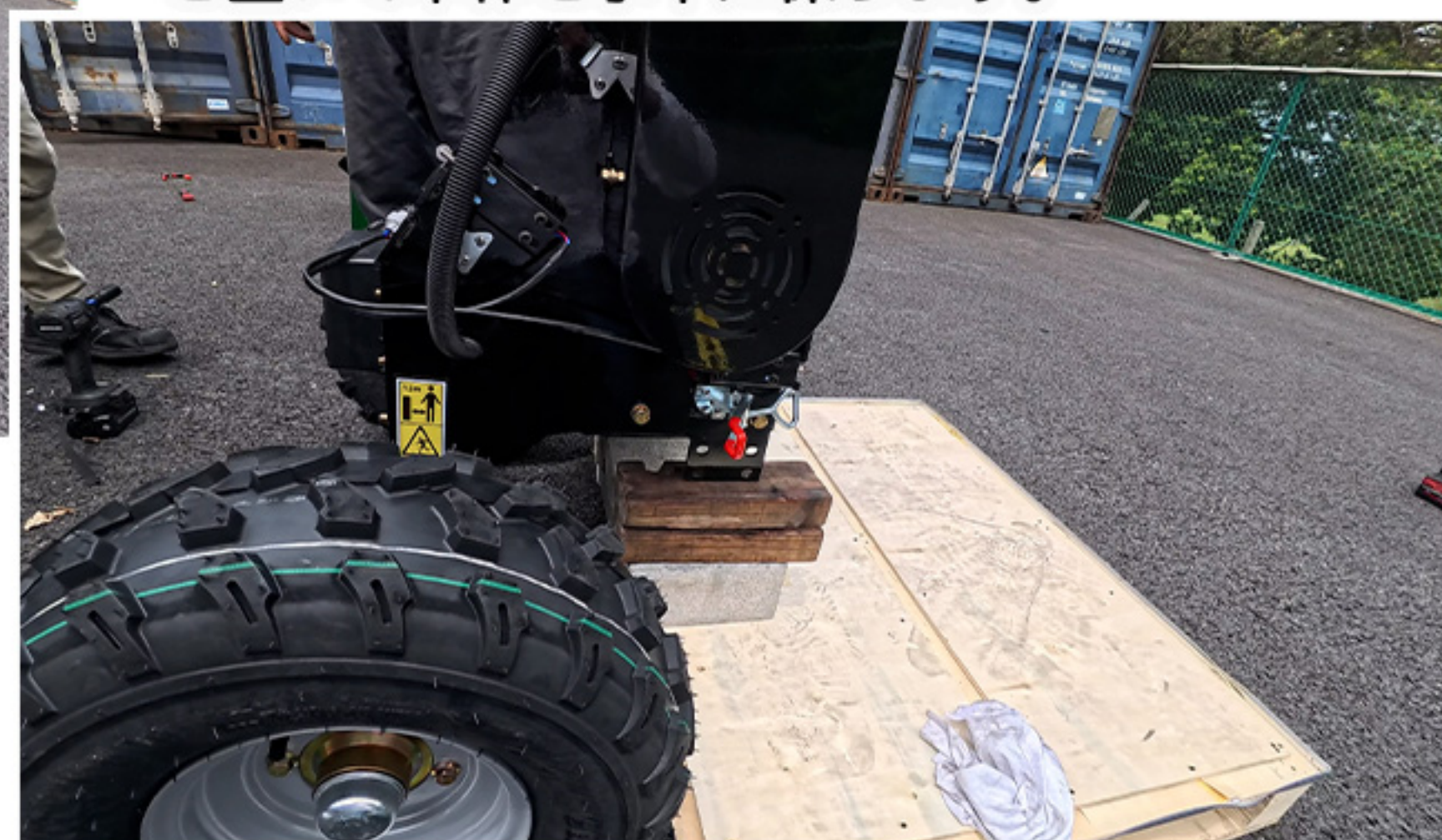
両方のタイヤを取り付けたら
後輪マウント部分を本体に取り付けます。
上下を間違えないように取り付けてください。



本体を斜めにし、1人が支えて
1人が組み立てる方法で取り付けています



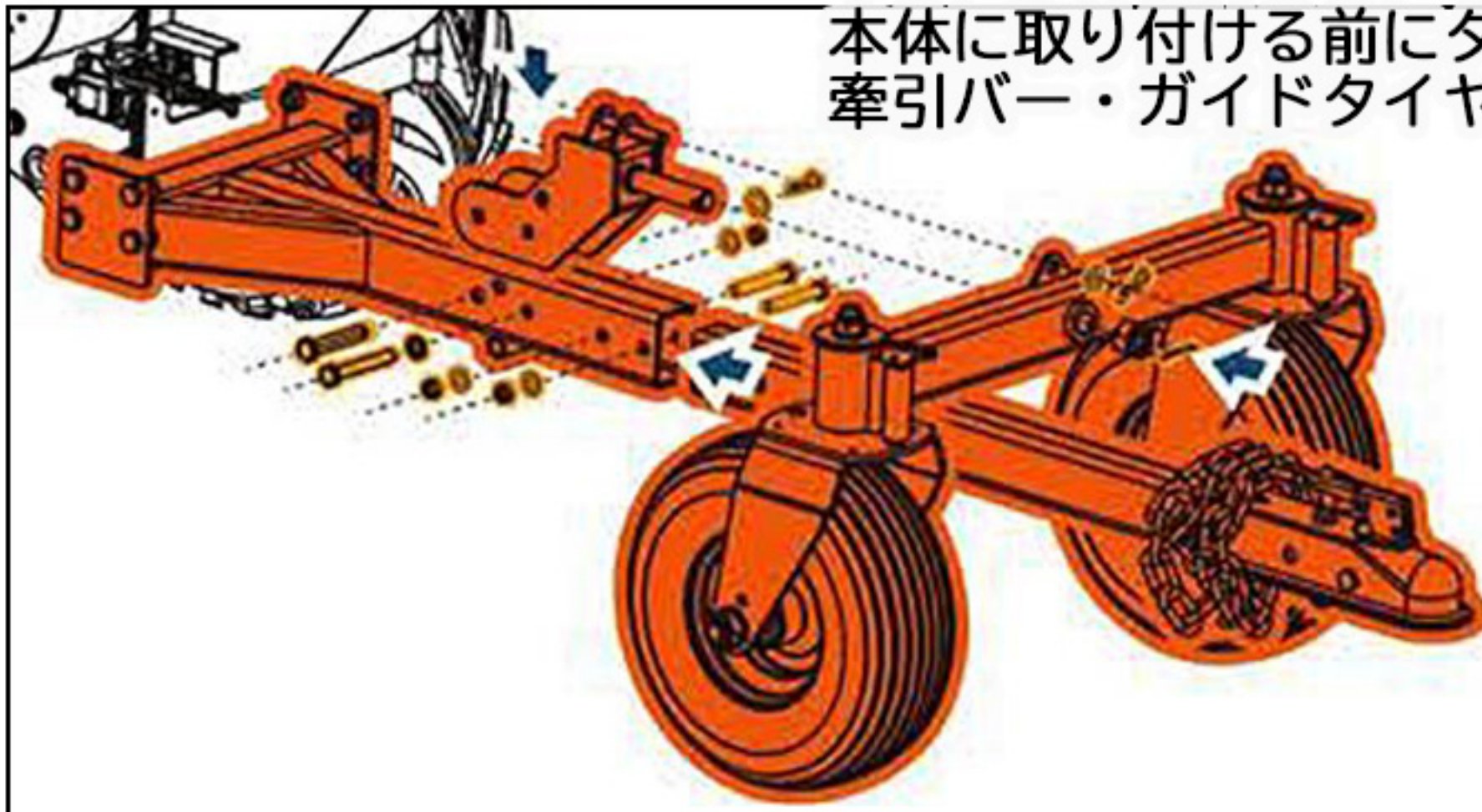
後輪パーツを取り付けたら
本体を水平に保つように
樹脂製下敷きや木材・レンガなど
を置いて本体を水平に保ちます。



組み立て 2

注意・本製品は重量物です。
・組立および運搬は、必ず2～3人以上で行ってください。
ケガや腰痛の原因になります。

タワーバーマウント・牽引バーガイドタイヤの組み立て



本体に取り付ける前にタワーバーマウントと牽引バー・ガイドタイヤを組み立てます。



タワーバーマウントにガイドタイヤを取り付けるバーを最初に向きに気をつけて取り付けます



先端のバーを取り付け
ガイドタイヤ支え用ボルト固定用のピンを抜き
ボルトを入れて元に戻し固定します。



ガイドタイヤパーツを取り付けるボルトに
止めているピンを外し
ナットを外します。



ガイドタイヤパーツを取り付けます

外したナットでしっかり固定した後
動かないように抜いたピンで止めます。



最後に先端部分にヒッチカプラーを取り付けます

組み立て ③

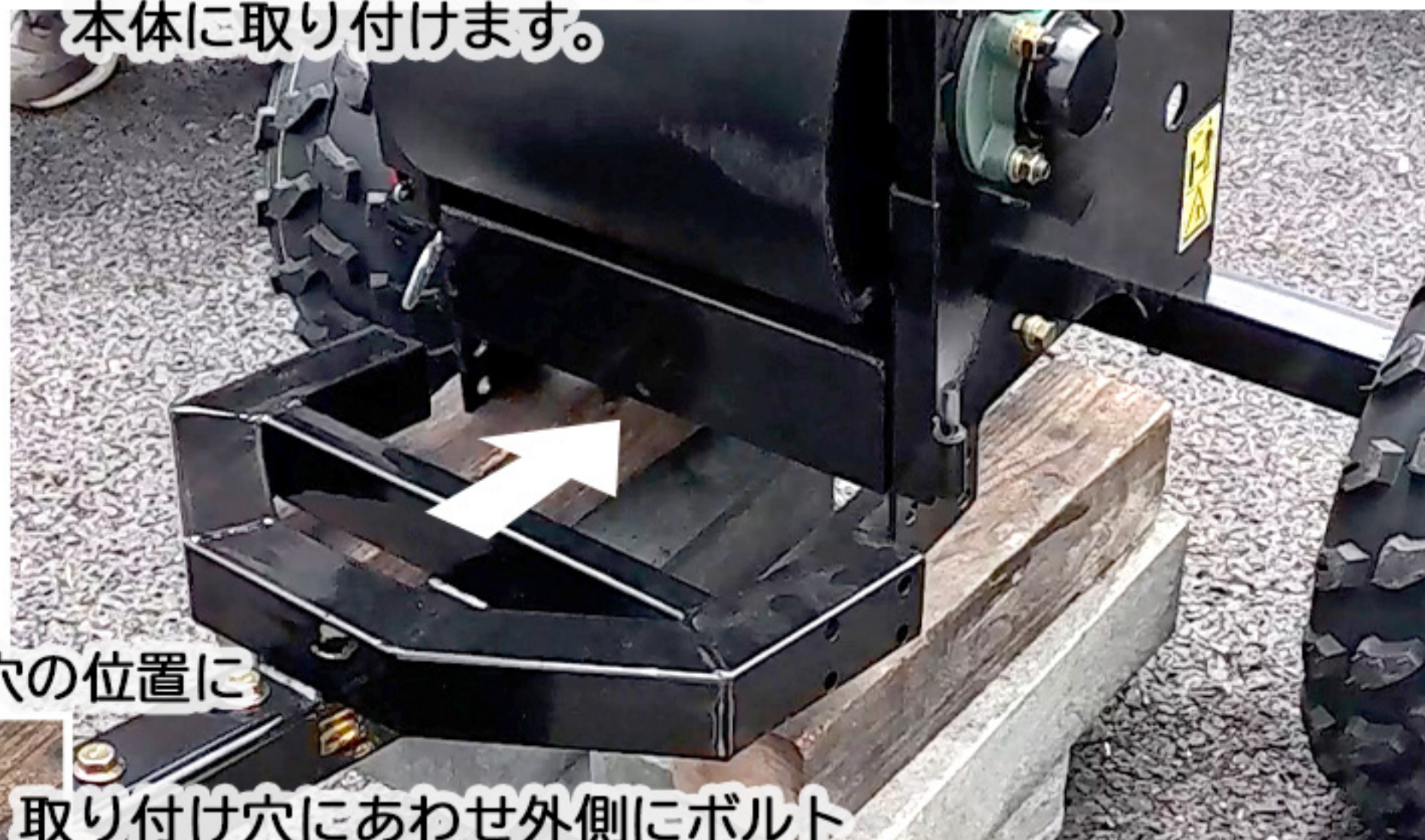
注意・本製品は重量物です。
・組立および運搬は、必ず2～3人以上で行ってください。
ケガや腰痛の原因になります。

牽引バーを本体に取り付ける



高さを合わせている本体にある穴の位置にあわせ取り付けしていきます。

完成したタワーバーマウント・牽引バーを本体に取り付けます。



取り付け穴にあわせ外側にボルト内側にナットで取り付けしていきます。



本体を支える部分なのでしっかりと固定します。

投入口のパーツを付ける

レバースイッチの取り付け



投入口前側にレバースイッチ用センサーボックスを取り付けます
投入口にとめてあるネジ類を外し、センサーを穴に合わせて外したネジで取り付けます。

投入側がボルトになるように取り付けます。
(ナット側になってしまうと投入時ナットに引っかかりやすくなってしまいます)



レバースイッチのレバーを取り付けます
左右の取付口に付けた後、センサーボックスのスプリング部分を締めてボルト面を少し出してレバー中央の穴部分をセンサー側の出したボルト面に取り付けていきます。
取り付けたらレバーの強さをスプリングで調整します。



レバースイッチのタッチをスプリングを使って調整できます。

緊急停止ボタンの取り付け



緊急停止ボタンを取り付けます
緊急停止ボタン側に

止められているネジを外し投入口反対側にある穴に位置を合わせて取り付けます。
投入口内のラバーゴムの裏側にも取り付ける穴がありますので気をつけてください。

組み立て

4

注意・本製品は重量物です。
・組立および運搬は、必ず2～3人以上で行ってください。
ケガや腰痛の原因になります。

バッテリーの配線の取り付け

バッテリーカバーを開け内部バッテリーに配線を取り付けます



取り付けたらバッテリーカバーに戻して
バッテリーカバーを本体に取り付けてください。

投入口と排出シュートの取り付け



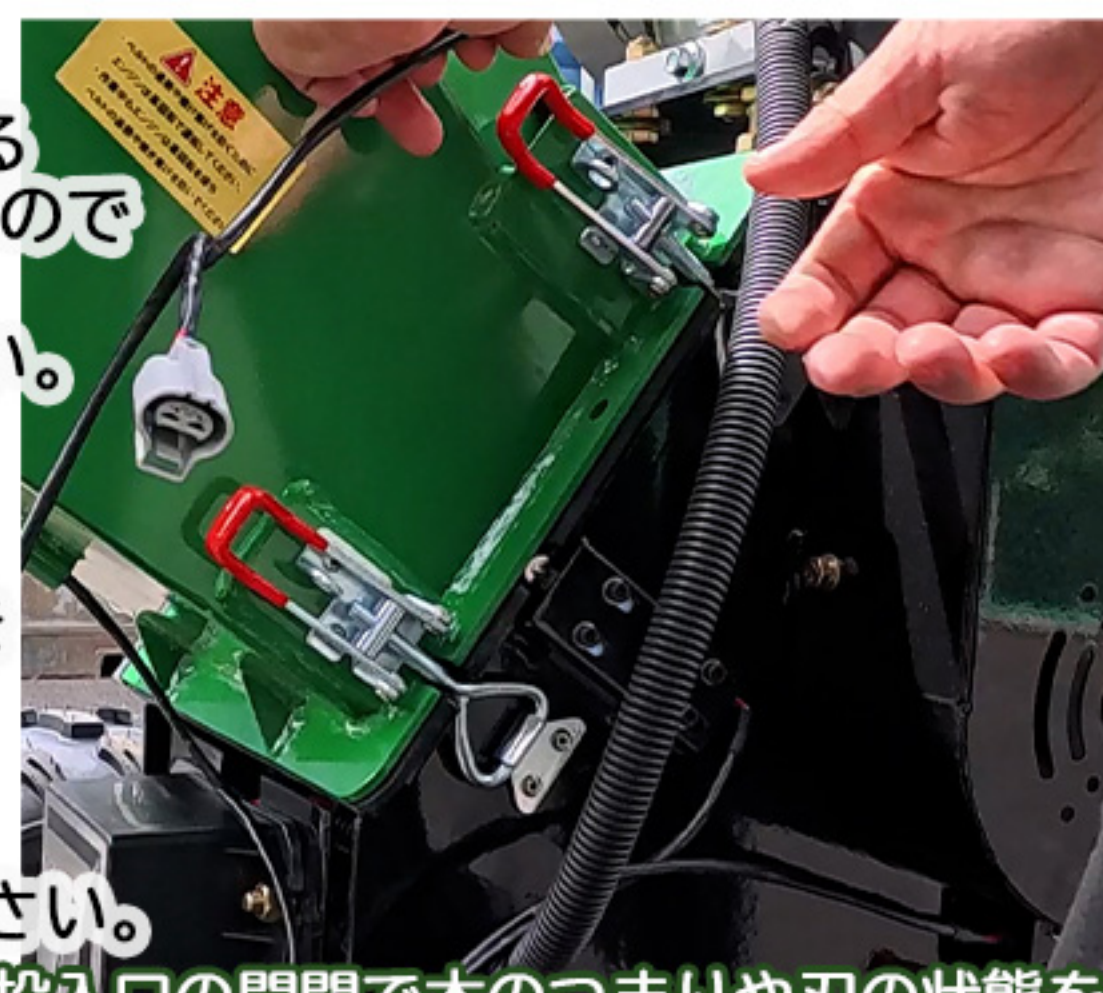
本体投入口側にラバーゴムを貼り付けます
入口の部分キレイにして
スプレーをかけます
拭いてなじませた後
ラバーゴムを貼り付けてください

投入口の取り付け



投入口を取り付けます
本体左側に投入口をとめる
ヒンジの軸部分がでていますので
投入口の差し込み口を
合わせて差し込んでください。

投入口反対側に
2ヶ所あるストッパーを
長さを合わせて
ロックします。
固定が終わったら
本体に配線を取り付けてください。



投入口の開閉で木のつまりや刃の状態を
いつでもチェックすることができます

排出シュートの取り付け



排出シュートを取り付けます
投入口と同様に
取り付けていきます
反対側に2ヶ所ある
ストッパーを
長さを合わせて
ロックします。



排出シュートの開閉で木のつまりや刃の状態を
いつでもチェックすることができます



排出シュートに排出口を
取り付けていきます。
排出シュート出口にある
窪みに合わせて
取り付けていきます。
作業中の粉碎状況にあわせて
角度と向きを変更できます。

各種オイル・燃料について

・輸送(運送)の都合でガソリンを抜いた状態で出荷しています。
ご使用前に必ずガソリンを規定量まで入れてください。

空焚きは故障の原因となります。保証対象外となりますのでご注意ください。

弊社で試運転、整備をしており、エンジンオイル、ギアオイルは規定量入った状態です。
交換目安を参考に適宜交換を行ってください。

エンジンオイル

10W-30/5W-30(1.1L)

注入口:画像の黄色キャップ(レベルゲージ付き)
2ヶ所ありますが、シフトレバー取り付け部上の
注入口の方が入れやすいです。
初回は50時間(慣らし運転)、
それ以降は50時間ごとに交換してください。



前側



ハンドル側

注入口の黄色キャップにレベルゲージがついてます。

〔H〕直下で保つようにしてください。

オイル交換の際は下にドレンボルトが付いていますが、排出しにくい場所にあるため
注入口よりオイルチェンジャー・オイルシリンダー等で抜いてください。

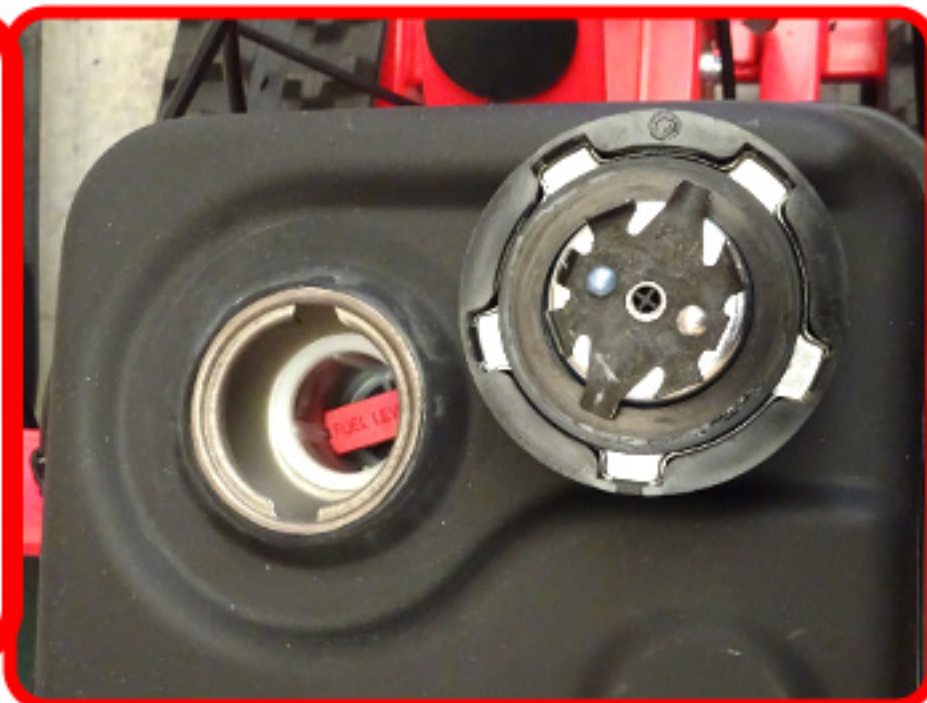
燃料・レギュラーガソリン

(タンク容量6.5L)

注入口:エンジン上タンクのキャップ タンク内部の赤いゲージまで入れてください。
赤いゲージより上に入れないでください。



※密閉型のタンクではありません。
キャップから気化した
燃料が出ています。
ゲージより上に燃料が
入っていると本体が傾くと
燃料がこぼれることがあります。
ご注意ください。



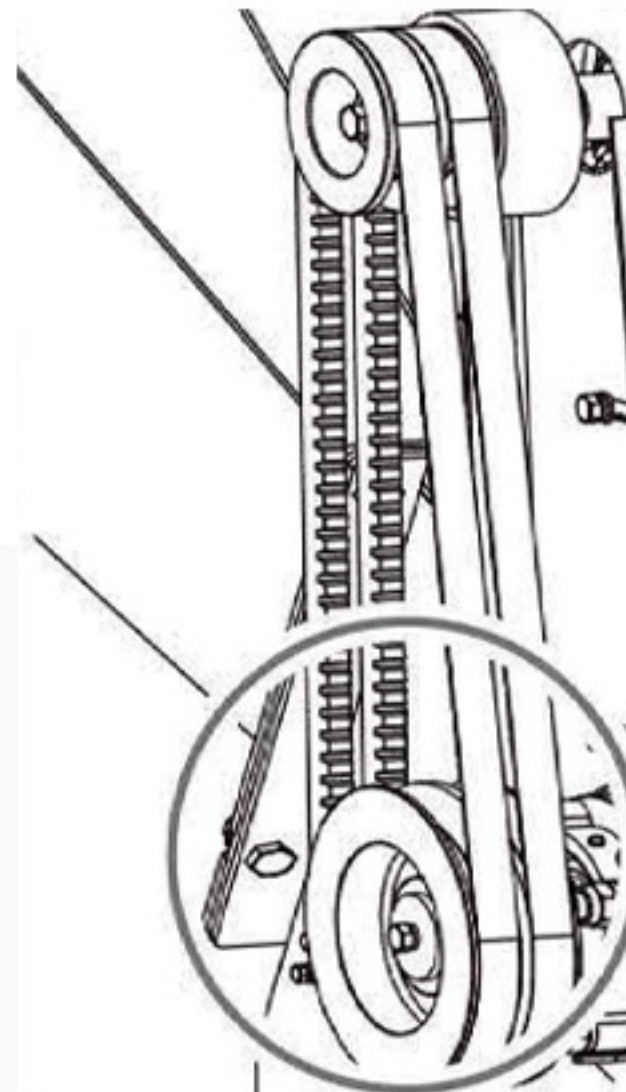
グリスアップ

エンジン始動前、(作業開始前)各部にグリスアップをお願いします。

外側ベアリング部分



ベルトカバー内



バッテリーについて



バッテリーボックス



バッテリーカバーを外します。

セルスターターを使用する場合

- ・初回使用前に必ずバッテリーを充電してください。
バッテリーカバーを外して、12Vバイクバッテリー充電器等で充電してください。
- ・バッテリーが充電されていないとセルスターターが起動できません。

※リコイルスターターはバッテリーがなくても使用可能です。

毎年の使用開始前に一度充電してください。

セルのかかりが悪くなった場合についても、充電によって解消できることがあります。

エンジン始動方法



チョークレバー

燃料レバー



両方のレバーを右へ

燃料コック(黒レバー)とチョーク(灰色レバー)を右に開けます。スロットルはスタート位置(一番右側)にあわせてください。

※チョークは初回始動時などエンジンが温まっていない状態では全開にしてください。

〔閉〕位置から1cm程度にあわせても始動できます。



スロットルレバー

エンジンの回転数はエアクリーナー横のスロットルで調整します。

粉碎作業時はスロットルを

高回転にして使用してください。

※低回転では不完全燃焼でガソリンがシリンダーからマフラーへまわって発火の恐れがあります。

セルスタート

付属のキーをエンジンスイッチに差し込み〔START〕までキーをまわすとエンジンが始動します。



エンジンスイッチ

リコイルスタート

付属のキーをエンジンスイッチに差し込み〔ON〕までキーを回しハンドルを引っ張ることでエンジンが始動します。



リコイルスターター
ハンドル

ハンドルを勢いよく引いてください。

※チョーク全開の状態で使用するとプラグかぶりの原因となります。
エンジン始動後は必ずチョークを〔閉〕から右に1cm程度の位置まで戻してください。

エンジン停止

エンジンスイッチのキーを〔OFF〕に戻します。
エンジンが停止したら燃料コック・チョークを〔閉〕の位置に合わせてください。



緊急時には

投入口の上部にある
緊急停止ボタンを押すことか
投入口下部にある
レバースイッチを押すことで
エンジンを止めることができます。

また、起動するときは
ボタンが押下状態に
なっているか確認してください。
押下状態のままだと
起動できません。



サーキットプロテクタ

エンジンスイッチ下にサーキットプロテクタがついています。
一定以上の過負荷がかかった時に電流を遮断し
回路やデバイスを過電流から守る装置です。
通常時はスイッチが〔ON〕
遮断時はスイッチが〔OFF〕になります。
遮断時はスイッチを押し込むことで〔ON〕になります。
※スイッチが〔OFF〕の状態ではエンジンを始動できません。
ご注意ください



ウッドチップパーの操作

ウッドチップパーについて

ウッドチップパーは枝、茎、つる、葉、根など乾いたものから有機素材まで幅広く粉碎処理ができます。草木などの植物性素材は直径125mmまで可能ですが、木の種類や硬さによって変わる場合があります。枝を機械に送り込む際に回しながら入れるとより粉碎しやすくなります。投入には、切りたてのものを処理するのがおすすめです。木の枝は乾燥すると非常に硬くなり、弾力が出て刃が早く鈍りやすくなります。ウッドチップパーは、柔らかいもの・湿ったもの・繊維質の材料で詰まることがあります。柔らかい材料は固めの枝と交互に少しずつ投入するなど、工夫をして投入してください。



投入

枝は切り口側を先にして投入し、葉の付いた側（枝先）は残したままにしてください。枝が投入口（フィードホッパー）内をスムーズに下り、細かい破片が回って跳ね返り、投入口側へ戻るのを抑えられます。横にはみ出た枝によっては、事前に切り落とす必要があります。

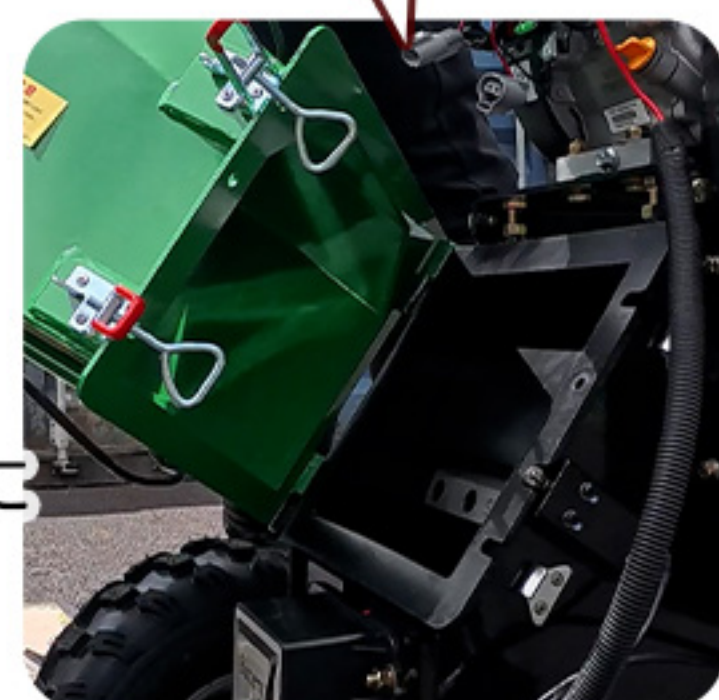


運転中は、直径約3cm・長さ1メートル程度の木の棒を手元に用意してください。短くて枝葉の多い材料を押し込んだり、投入口（フィードホッパー）内の詰まりを防いで通りを良くしたりするのに役立ちます。

注意

材料を無理に押し込まないでください。うまくチップ化しない場合は、カッティングディスク内チップパーナイフの研磨または交換が必要なことがあります。ナイフとウェアプレートのすき間調整が必要な場合があります。一度に大量の材料を投入口へ入れて、チップパー本体に負荷をかけすぎないようにしてください。エンジン回転が落ちる音がしたら、ただちに投入をやめてエンジンが規定の回転数まで戻るまでエンジンを運転してください。

投入口カバー



機械内に残ったカスは、運転中に自然に排出されやすい構造です。糸状の材料がローターシャフトに巻き付いた場合は、ベアリングに巻きつく前に取り除くようにしてください。

過負荷や詰まりでチップパーが停止した場合は、エンジンの電源スイッチを切り、カッティングディスクが完全に停止し、ベルト駆動が解除されるまで待ってください。エンジンが十分に冷えるまで待ってから、エンジンをOFFにします。投入口・排出シュートのカバーを開け、内部のゴミをすべて取り除いてください。投入口・排出シュートを確実にロックし、エンジンをONにして再始動し、作業を再開します。



排出シュート
カバー

排出物が大量（山）になってきたら、チップパーを排出したチップの山から離してください。排出シュートへの逆流を防げます。近いまま粉碎作業をおこなうと風量が落ちて排出が妨げられ、詰まりの原因になります。

使用前に毎回、非常停止スイッチと赤いレバースイッチが確実に作動することを確認してください。作動しない場合、重大なけがや死亡につながるおそれがあります。粉碎作業を行わないときは、エンジンへの負担を減らすため、スロットルレバーをLOW位置にしてください。回転数を下げることで、エンジン寿命の延長に加え、燃料の節約や騒音の低減にもつながります。

非常停止スイッチ

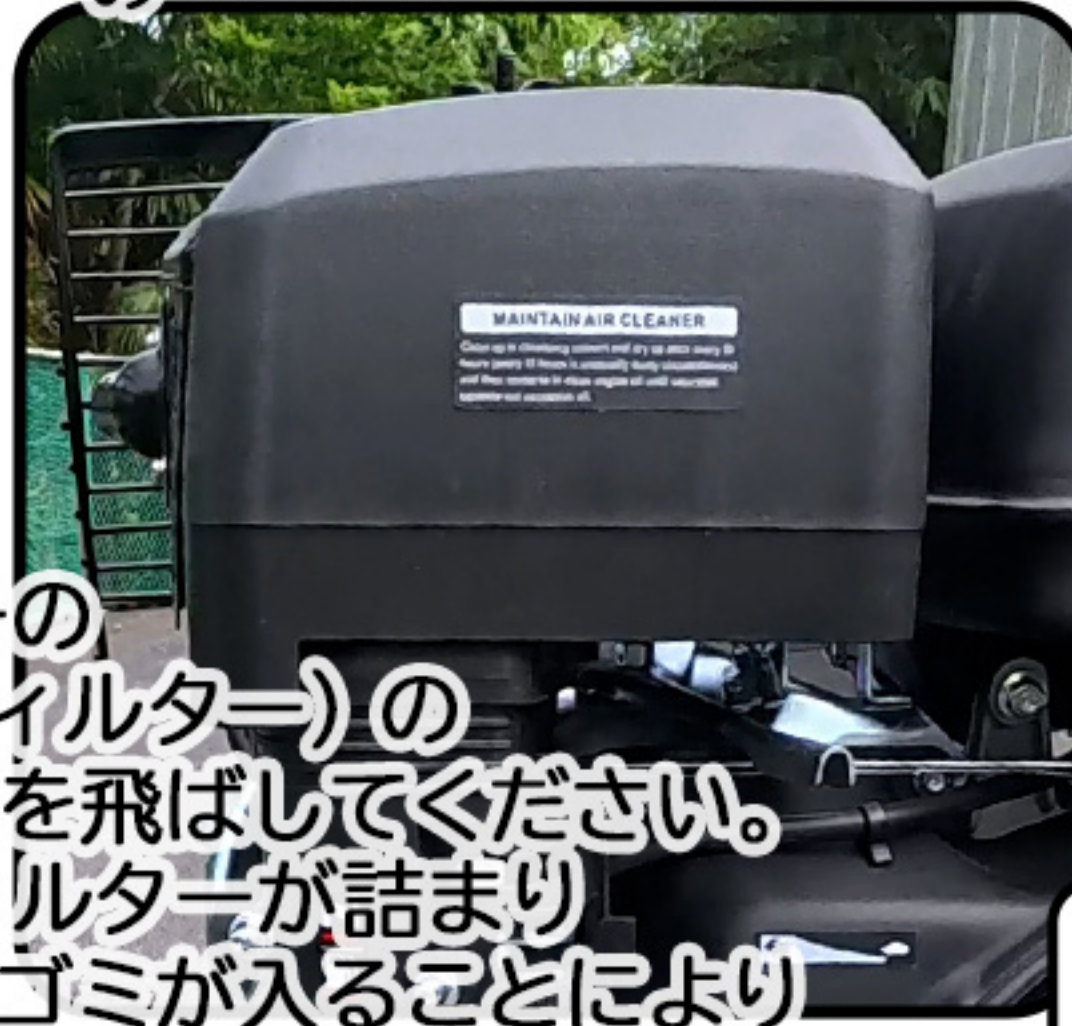


レバースイッチ

点検

エアクリナー

前面から見て右のエアクリナーのカバーを外します。



フィルターの掃除をこまめにおこなってください

作業後毎回エアクリナーのフィルタ（スポンジ・紙フィルタ）の清掃（エアブロー）で粉塵を飛ばしてください。清掃せずに使用するとフィルタが詰まりキャブレター・エンジンにゴミが入ることによりバックファイヤー・アフターファイヤーが発生し本機が動かなくなることがあります。

フィルターの清掃を行わず、発生した故障・事故に関しては弊社は責任を負いません
あらかじめご了承ください。

作業を行う場所によってはフィルタが詰まりやすい場所になりますので注意してください。

点火プラグ

前面から見て右のエアクリナーをすべて外します。（外さなくても可能です）
点火プラグのプラグカバーを外し、付属のプラグレンチで点火プラグを外します。



点火プラグ

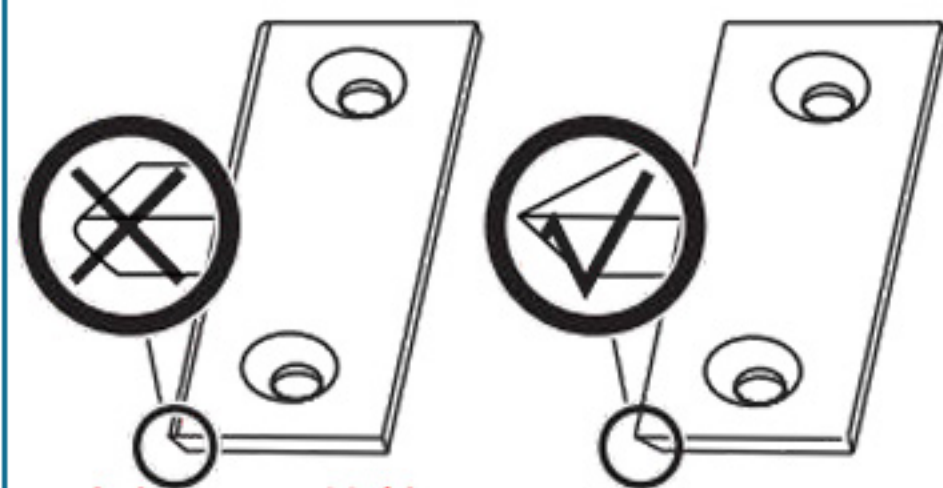
プラグカバー



点火プラグの先(電極)に付いたカーボンをナイロンブラシで掃除してください。プラグが劣化している場合は新しいプラグに交換してください。

カッティングディスク内チップナイフの交換

・交換時期・



チップナイフの状態を定期的に点検することで、ウッドチップperを常に最大限の効率で運転できます。切れ味の落ちたチップナイフを使用すると性能が低下し、過度の振動が発生して機械を損傷させるほか、粉碎作業が困難になります。

チップナイフの取り外しと交換

このウッドチップperのカッティングディスクには、2枚のチップナイフが取り付けられています。ナイフの切れ味が落ちたり、目に見えるような刃こぼれが生じたりしたら、交換の目安となります。

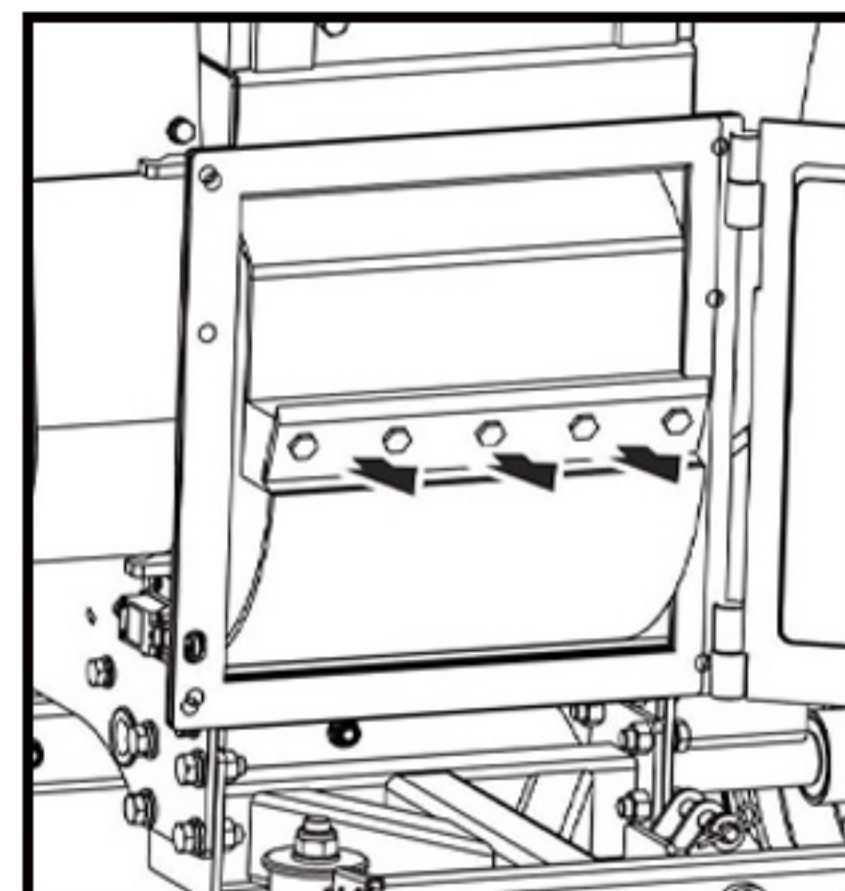
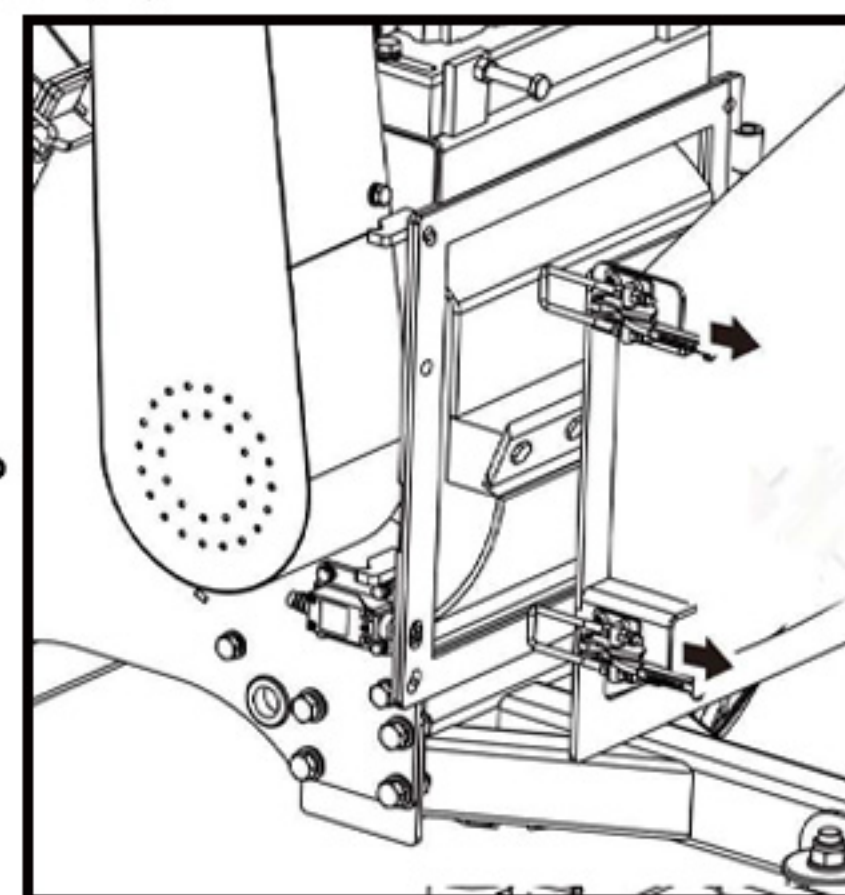
そのまま作業を繰り返すと、自動送り機能が働かなくなったり、排出するチップが荒くなったりしますので、交換をおこなってください。

1. 投入口カバーを開けます。（作業時、邪魔な時は取り外します）
2. 排出シュートのカバーを開けます。（作業時、邪魔な時は取り外します）
3. 投入口側から刃が見える位置まで、切断ディスクを回転させます。
4. 刃を固定しているボルトとナットを取り外します。

※作業する際は粉碎作業直後を避け、熱が無いのを確認し、刃物を扱うことに十分に注意し、必ず手袋を着用してください。

5. 切れ味が落ちたナイフや損傷したナイフを取り外し、切断ディスクのロットおよびナイフ取り付け部を目視で点検します。

取り付け面がきれいであることを確認し、新品または研磨済みの刃を、刃先を上に向けて再度取り付けます。刃がカッティングディスクに隙間なく密着するように取り付けてください。



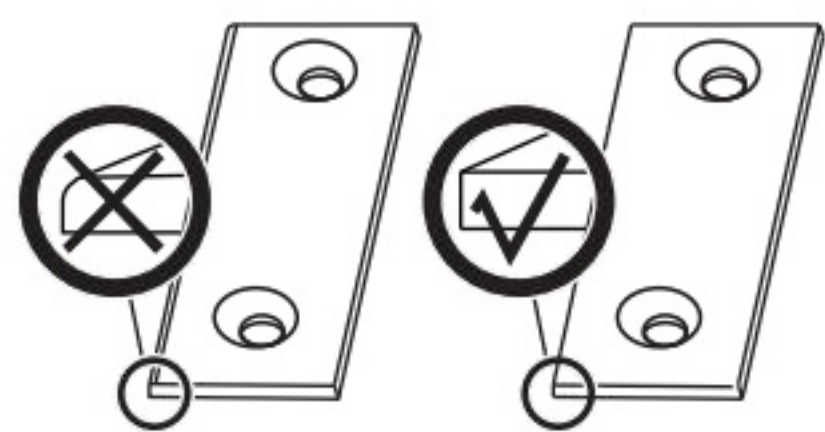
・注意事項・

カッティングディスクの表面が適切に清掃されておらず、刃がディスクに密着していない状態で固定具を締め付けると、刃が割れる恐れがあります。刃と摩耗板（ウェアプレート）との隙間は、ローターシャフトに最も近い位置で約1mm、最も遠い位置で約3mmになるようにしてください。木材に食い込む際のカッティングディスクのわずかな動きを許容するため、隙間は外側に向かってわずかに広がるような形状（テーパ状）になっています。すべてのロックナットが適切に締め付けられていることを確認してください。

整備または調整後は、棒を使ってカッティングディスクを回し、異音・カチカチ音・振動がないか注意深く見て聞いてください。いずれかが確認できた場合は、始動前に機械の損傷や部品の緩みを点検し、修理・交換・増し締めを行ってください。

ウェアプレートの交換

・交換時期・



ウェアプレートのエッジ（角）の状態を定期的に点検することでウッドチップパーを常に最大限の効率で運転できます。角が歩くなったプレートを使用すると性能が低下し過度の振動が発生して機械を損傷させるほかチップング作業が困難になります。

ウェアプレートの取り外しと交換

ウェアプレートは浸炭焼入れ処理されており、裏返して再使用できます。通常、端部は長期間もちます。端部が丸くなってきたら、裏返して使用してください。ウェアプレートは再研磨できません。浸炭焼入れにより硬化しているため、研磨すると硬い刃先が失われます。両側の端部が摩耗した場合は、ウェアプレートを交換してください。

投入口のカバーを開け、下のバッテリーカバーを取り外しウェアプレートを取り出しやすい状態にします。

ウェアプレートをチップパーアッセンブリに固定しているロックナットとボルトを外し、ウェアプレートを取り外します。

1・新しいウェアプレートを取り付け、ボルトとロックナットで確実に固定します。

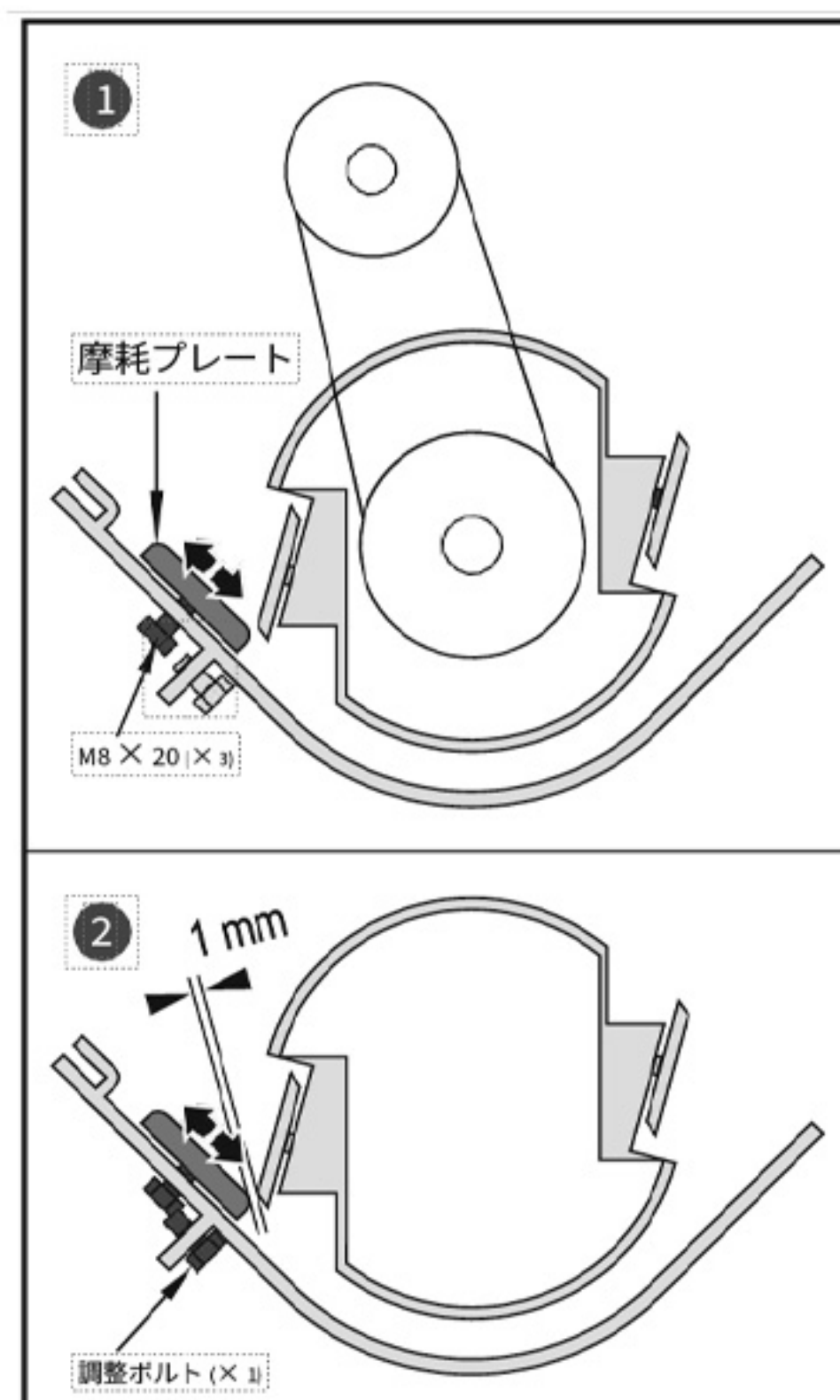
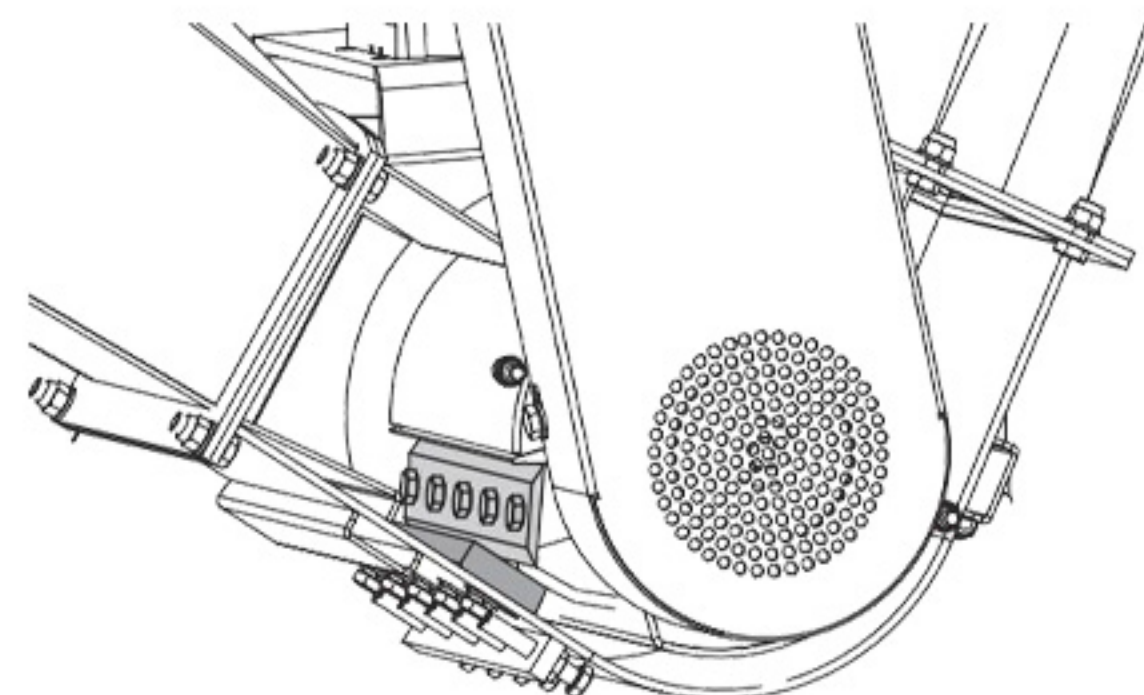
2・ナイフとウェアプレートのすき間を1mmの幅に調整してください。

・注意事項・

ウェアプレートの取り付けが適切でないと、粉碎時に過度な振動が発生し、ナイフが切れなくなったように感じられます。すき間が不足している場合、太い枝を切断する際のたわみによりナイフ刃先がウェアプレートに接触し、刃先を傷めるおそれがあります。反対に、すき間が大きすぎると、小枝や繊維質の木が切断されないまま引き込まれてしまいます。

整備または調整後は、棒を使ってカッティングディスクを回し、異音・カチカチ音・振動がないか注意深く見て聞いてください。いずれかが確認できた場合は、始動前に機械の損傷や部品の緩みを点検し、修理・交換・増し締めを行ってください。

カッティングディスクの表面が十分に清掃されていない、またはナイフがカッティングディスクに正しく取り付けられていない状態で締結部品を締め付けると、ナイフが割れるおそれがあります。



定期点検票

いつも安全な状態で作業をおこなえるように、
この定期点検表を活用して点検をおこなってください。
点検や整備を怠ると事故や故障の原因になる場合があります。

点検項目		チェック項目と点検内容		点検頻度
エンジン	エンジン 本体	かかり具合、異音の発生	始動の際、問題ないか？	作業前
		回転数と加速	回転をあげてなめらかに回転するか？	作業前
		排気・ガス漏れ	排気臭、排気音は正常か？	作業前
		エアクリナーの状態	取付部分の緩み・損傷や汚れがあるか？	作業前
		シリンダーヘッド・各締付箇所	ガス漏れや亀裂、腐食の確認	年に数回
		エンジンまわりの亀裂変形	エンジンに亀裂や変形などの症状	作業前
		各ボルト・ナットのゆるみ	ボルト・ナットに緩みがあるか？	作業前
	オイル	油量・汚れ	オイル量は適切か？汚れや混入はあるか？	作業前
		油漏れ	オイルシール・ガスケットに漏れがあるか？	作業前
	燃料関係	燃料漏れ	燃料の漏れはないか？	作業前
		燃料フィルタの詰まり	目立つ汚れ、変形、目詰まりはあるか？	毎月
		燃料の量・燃料の質	燃料は入っているか？古いガソリンか？	作業前
	空気清浄	エアクリナーの汚れ・破損	エアクリナーとフィルターの掃除、破損の確認	作業前
	冷却関係	リコイルカバーの目詰まり	リコイルカバー等がチップで詰まってないか？	作業前
		マフラー部へのゴミの堆積	ゴミが堆積していないか？	作業前
動力伝達装置	ベルト	緩み	ベルトの張り具合は適切になっているか？	作業前
		損傷・汚れ	亀裂や汚れ損傷のチェック	毎月
		プーリー等の回転不足	グリスアップはおこなっているか？	作業前
車体	ボディ カバー	亀裂・変形・腐食	フレームの亀裂、変形があるか？	毎月
		取付ボルト・ナットの緩み・脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落のチェック	毎月
レバー	レバー ワイヤー	レバー・ワイヤーの損傷、緩み	作動確認、取付状態、損傷や痛み	年に数回
		ガタつき、割ピンの欠損	がたつきや脱落のチェック	毎月
チップ	投入・排出 シュート	投入シュート内の異物混入	確認と、カバー奥のチェック	作業前
		排出シュート内の異物混入	排出シュート内部のチェック・清掃	作業前
	刃 シャフト	刃の欠損・曲がり・摩耗	刃の欠損、曲がり、摩耗のチェック	異常時
		カッティングディスクの異音や振動	ウェアプレートの曲がり、刃が欠けてないか？	異常時

困ったときは

主に起きやすい原因と対処法を一覧にしています。
他の原因が発生したときはお問い合わせください。

起こった事	可能性のある原因	処置方法
エンジンがかからない…	燃料コック・チョークが 〔閉〕になっている。	〔開〕にあわせる。
	プラグカバーが外れている	プラグカバーを被せる。
	点火プラグの劣化	点火プラグを交換する。
	燃料が少ない、入っていない	ガソリンを補充する。
	エアクリナーが汚れている	オイルの交換・エアクリナーを掃除する
	緊急停止ボタンが入っている	緊急停止ボタンの解除
ベルトが滑る…	ベルトの張りが弱い	ベルトの張りを調整 問題があればベルトの交換する。
	カッティングディスクに ごみが付着している	ごみを取り除く。
	プーリーにゴミが付着している	プーリーを掃除する
	ベルトの摩耗	ベルトを交換する。
粉砕が弱く感じる…	回転速度が速い	スロットルを低回転にする。
	回転速度が遅い	スロットルを高回転にする。
	ウェアプレートの摩耗・刃損	ウェアプレートを交換する。
	汚れの堆積	汚れを清掃する
普段より振動が大きい…	ウェアプレートの摩耗・接触	ウェアプレートの調整または交換
	刃の摩耗・刃損	新しい刃と交換する。
	ベルトの破損	新しいベルトに交換する。
	ゴミが付着している	取り除く（掃除する）。
普段より粉砕作業の 効率がよくない…	エンジン回転が低い	エンジン回転数をあげてみる
	作業速度が早く感じる	作業速度を落としてみる。
	カッティングディスク周りに ゴミがたまったり巻きついている。	ゴミを取り除き、カッティングディスクが スムーズに回るか確認する
	投入口、排出口からのゴミで カッティングディスクが詰まる	ゴミを取り除き、カッティングディスクが スムーズに回るか確認する
	排出シュートが詰まっている	ゴミを取り除く
作業中にオイルまたは 栓がとびだす	ミッションオイルの入れすぎ (内圧過上昇)	正規のオイル量に調整する。

エンジンの不調

エンジンの不調かな？と思ったときこの表で診断して、適切に処置をおこない不調のまま作業を行わないようにしてください。

起こった事	可能性のある原因	処置方法
エンジンがかからない…	エンジンスイッチがONになっていない	エンジンスイッチをONの位置にする。
	チョークレバーを引いていない	エンジンを冷却後チョークレバーを引く
	燃料が流れない	燃料タンクとキャブレターを点検して中にある不純物や水分を除去する
	燃料コックが閉じている	燃料コックを開く
	寒い時にエンジンの回転が重い	オイルの粘度を状況に合わせ使い分ける
	点火プラグの不調	プラグの電極の隙間を点検、調整する または、新品のプラグと交換する
	セルスターターの不調	バッテリーのチェック・充電
	緊急停止ボタンが入っている	緊急停止ボタンの解除
エンジンの出力不足…	燃料不足	ガソリンを補給する
	古い燃料を使っている	新しい燃料と交換する
	エアクリナーの汚れ、詰まり	エアクリナーの清掃・フィルター交換
	冷却系統の目詰まり	リコイルスターター周辺を掃除する
突然エンジンが止まる	燃料不足	ガソリンを補給する
	燃料コックが閉じている	燃料コックを開く
作業中しばらくするとエンジンが止まってしまう	点火コイルの不良	点火コイルを交換する
	燃料フィルタの目詰まり	燃料フィルタを掃除する
排気に刺激臭がある	燃料の劣化	新しいガソリンと交換する。
	古い燃料を使っている	新しいガソリンと交換する。
マフラーから黒煙がでて出力が低下する	エアクリナーの目詰まり	エアクリナー廻りとフィルターの掃除
	チョークが完全に開いていない	チョークレバーを調整する
マフラーから白煙が出る	エンジンオイルを入れすぎている	エンジンオイルを正規の量に調整する
	シリンダ・ピストンリングの摩耗	ピストンリングを交換する
エンジンの回転数が上昇しない（安定しない）	チョークが完全に開いていない	チョークレバーを調整する
	燃料の劣化	新しいガソリンと交換する。
	古い燃料を使っている	新しいガソリンと交換する。

原因が分からないときはお問い合わせ（ご相談）ください。

刃の摩耗・交換の目安

本製品は高速で回転する刃を使い粉砕作業する機械です。
刃が曲がったり欠損した状態で作業をすると
本体の振動や故障、重大な事故の原因となります。
始動前の点検は重大な事故、
故障を防ぎ安全な作業をするためにも必要な作業です。
刃の欠損や曲がりが生じた状態や目に見えて摩耗した時など
刃の交換の目安になります。
摩耗の場合は回転方向に対し反対側の刃が使える場合は
刃の向きを変えて作業がおこなえます。
欠損や曲がりが生じた場合は速やかに交換してください。

寒冷地での使用について

冬季は作業後必ず本機械に付着した泥や異物を取り除き
固い路面上（コンクリートやアスファルト等）に駐車してください。
付着物が凍結すると故障の原因となります。

凍結して運転不可能となった場合は、無理に動かさず
凍結箇所をお湯や溶剤で溶かすか、凍結が溶けるまで待ってから
運転作業をおこなってください。

（無理に動かした場合の故障）については責任を負いかねますのでご注意ください

お問い合わせ

- 輸入販売元 株式会社グレス
- 連絡先 gress@gress.click
- 所在地 千葉県市原市金剛地1479-2



LINEアカウント

- 公式LINEアカウント（アウトドアショップグレス）
右のQRコードを読み取って友だち登録してください。
画像や動画のやり取りをする場合はLINEを推奨致します。



弊社ホームページ

- 株式会社グレスホームページ（<https://www.gress.click/>）
取り扱い説明書がダウンロードできます。



YOUTUBE

- 株式会社グレスYOUTUBE
商品に関連した動画をご覧いただけます。

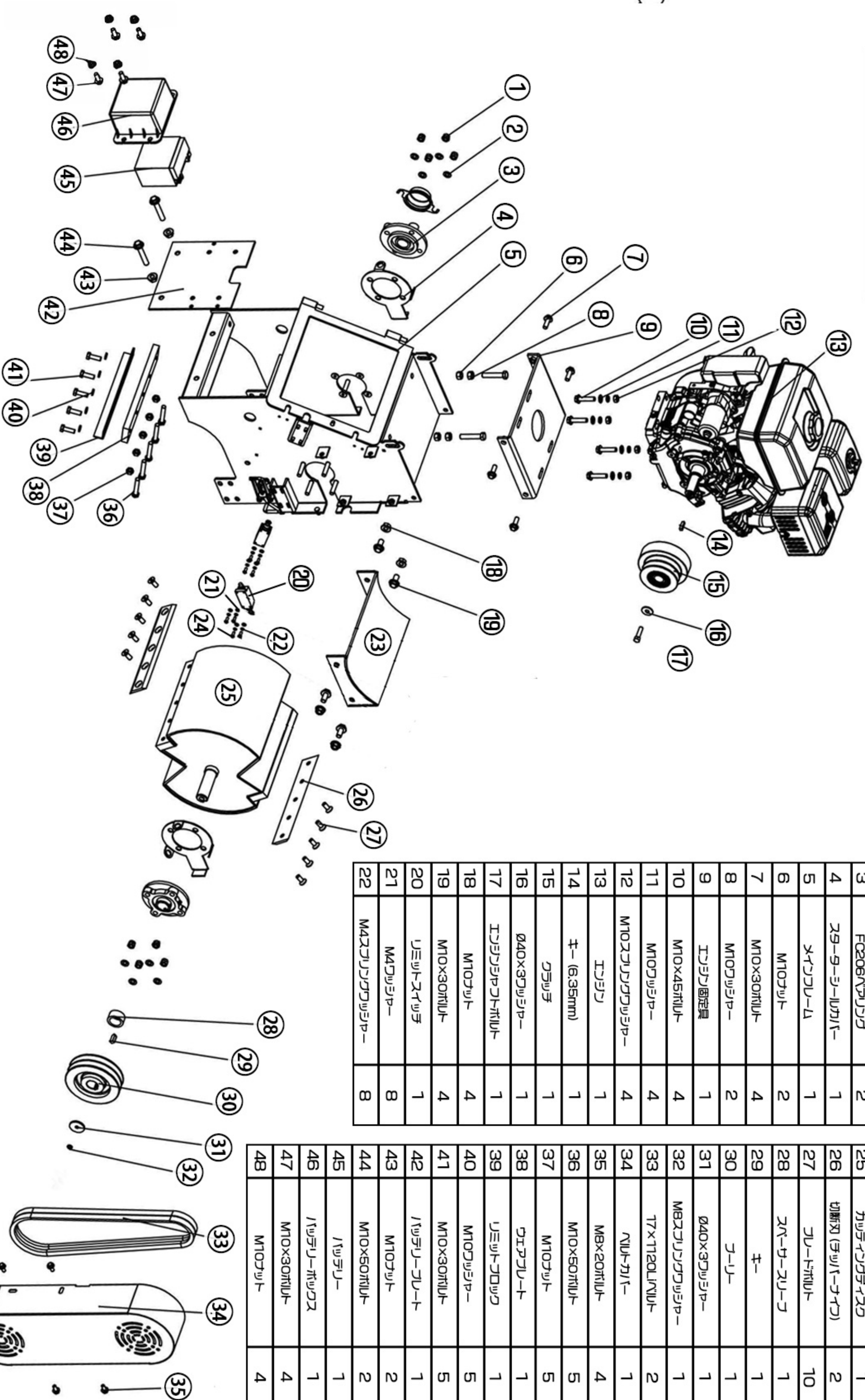


GRESS

株式会社グレス

部品一覧

GRSWDC-125本体

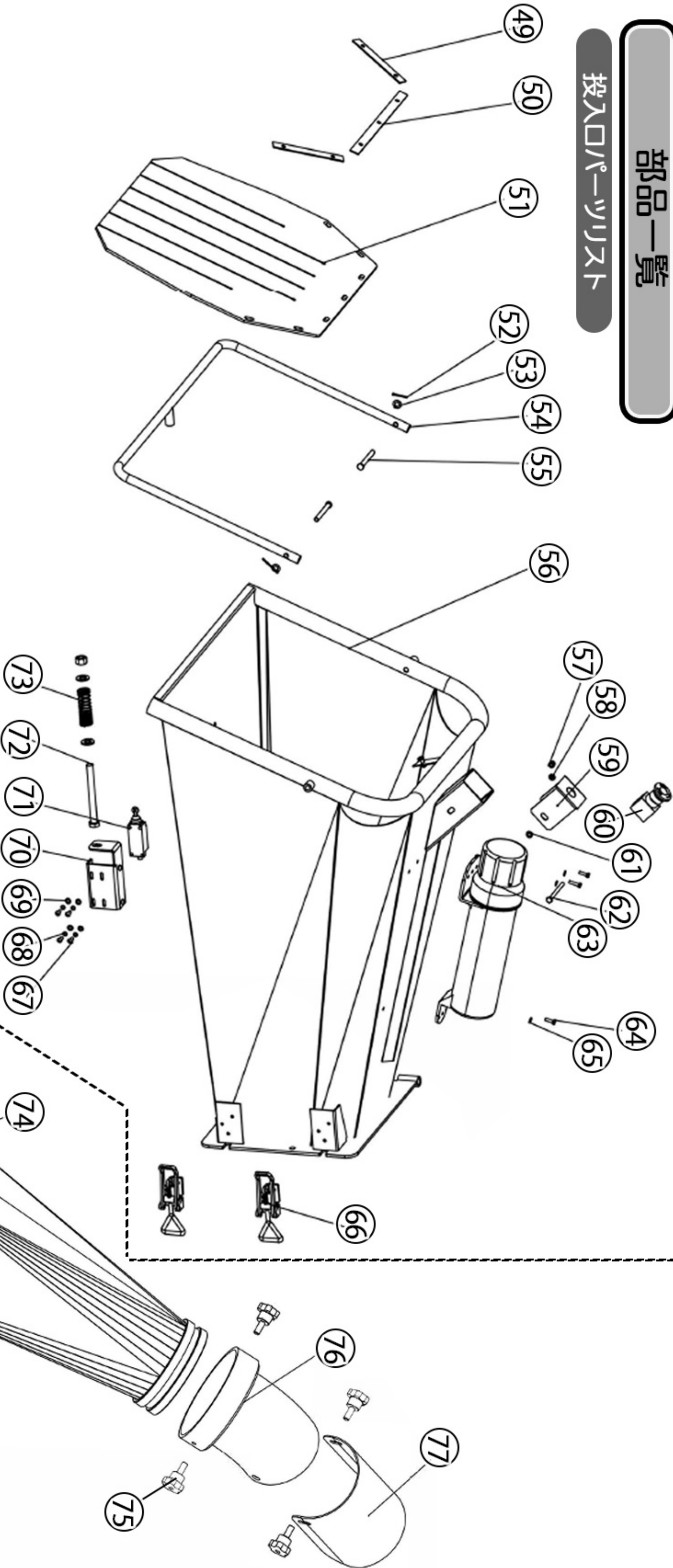


品番	部品名	数量
1	M10ナット	8
2	M10ワッシャー	8
3	FC206ベアリング	2
4	スローター-シールカバー	1
5	メインフレーム	1
6	M10ナット	2
7	M10x30フィル	4
8	M10ワッシャー	2
9	エンジン固定具	1
10	M10x45フィル	4
11	M10ワッシャー	4
12	M10x25ワッシャー	4
13	エンジン	1
14	キ- (6.35mm)	1
15	クラッチ	1
16	Ø40x37ワッシャー	1
17	エンジンマウント	1
18	M10ナット	4
19	M10x30フィル	4
20	リミットスワッチ	1
21	M4ワッシャー	8
22	M4x25ワッシャー	8

品番	部品名	数量
23	マ-チフレーム	1
24	M4x10フィル	8
25	カッターマ-チフレーム	1
26	切斷刃 (マ-チフレーム)	2
27	フレーム	10
28	スローター-マ-チフレーム	1
29	キ-	1
30	マ-チフレーム	1
31	Ø40x37ワッシャー	1
32	M8x25ワッシャー	1
33	T7x1120Lフィル	2
34	フィルカバー	1
35	M8x20フィル	4
36	M10x50フィル	5
37	M10ナット	5
38	フレーム	1
39	リミットマ-チフレーム	1
40	M10ワッシャー	5
41	M10x30フィル	5
42	リミットマ-チフレーム	1
43	M10ナット	2
44	M10x50フィル	2
45	リミットマ-チフレーム	1
46	リミットマ-チフレーム	1
47	M10x30フィル	4
48	M10ナット	4

部品一覧

投入口パーツリスト



品番	部品名	数量
49	コレート (積層板)	2
50	コレート (積層板)	1
51	コレート	1
52	ビス	2
53	M8ワッシャー	2
54	スライツ/ハットル	1
55	ビス	2
56	投入ホッパー	1
57	M6ワット	1
58	M6ワッシャー	1
59	スライツ下部	1
60	緊急停止スライツ	1

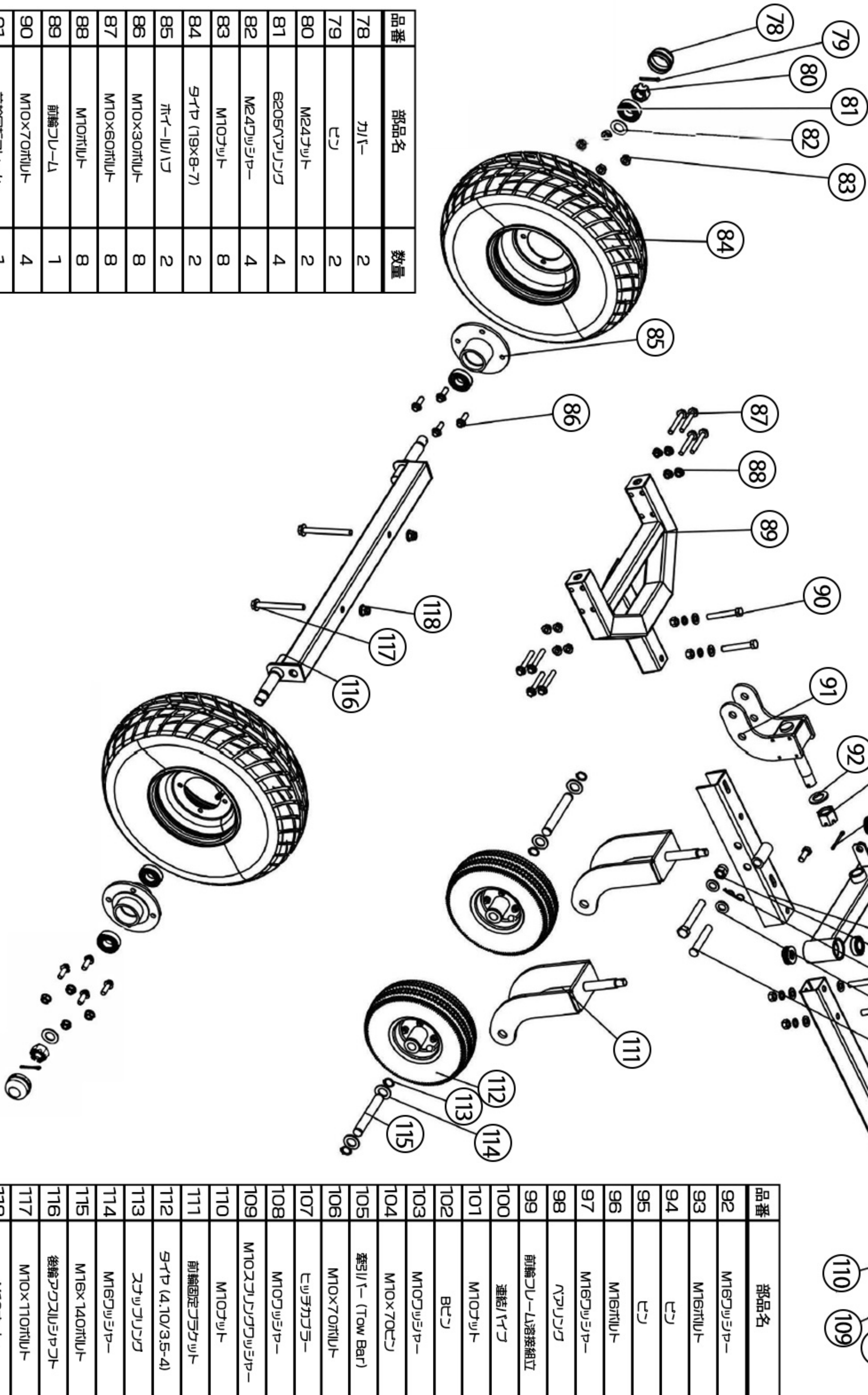
品番	部品名	数量
61	M6ワッシャー	1
62	M6×70ボルト	1
63	書類収納キューブ	1
64	M5×20ボルト	3
65	M5ワット	3
66	ロッキングピッチ	4
67	M4×10ボルト	4
68	M4スクリューワッシャー	4
69	M4ワッシャー	4
70	スライツコレート	1
71	リミットスライツ	1
72	M10×90ボルト	1
73	スクリュー	1

排出シユートパーツリスト

品番	部品名	数量
74	排出シユート (下部)	1
75	M8×20ボルト	4
76	排出シユート (上部)	1
77	チリクロー (排出方向調整板)	1

部品一覧

補助輪・牽引パーツ一覧



品番	部品名	数量
78	カバー	2
79	ピン	2
80	M24ナット	2
81	6205ベアリング	4
82	M24ワッシャー	4
83	M10ナット	8
84	タイヤ (19x8-7)	2
85	ホイールハブ	2
86	M10x30ボルト	8
87	M10x60ボルト	8
88	M10ボルト	8
89	前輪フレーム	1
90	M10x70ボルト	4
91	前輪回転フレーム	1

品番	部品名	数量
92	M16ワッシャー	1
93	M16ボルト	1
94	ピン	1
95	ピン	1
96	M16ボルト	2
97	M16ワッシャー	2
98	ベアリング	4
99	前輪フレーム溶接組立	1
100	連結バー	1
101	M10ナット	1
102	ピン	1
103	M10ワッシャー	2
104	M10x70ピン	1
105	牽引バー (Tow Bar)	1
106	M10x70ボルト	2
107	ヒッチカク	1
108	M10ワッシャー	6
109	M10スクリューワッシャー	6
110	M10ナット	6
111	前輪固定ブラケット	2
112	タイヤ (4.10/3.5-4)	2
113	スクリュー	4
114	M16ワッシャー	4
115	M16x140ボルト	2
116	後輪アスリキブラケット	1
117	M10x110ボルト	2
118	M10ナット	2